

平成 26 年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・1

事業概要

研修日程表

派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿

派遣日程表

○紀行文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

8月11日（月）：出発～コペンハーゲンでの初日

登別明日中等教育学校 1回生 寺谷 倫

8月12日（火）：オーデンセ見学～ホストファミリーとの初対面

鷺別中学校 2年 伏見 結衣

8月13日（水）：リングフリー校初日

鷺別中学校 1年 佐野 玲央

8月13日（水）：午後からの見学

登別中学校 2年 早坂 咲

8月14日（木）：レゴランド～食事会

鷺別中学校 1年 木村 来実

8月15日（金）：リングフリー校～森の幼稚園

鷺別中学校 1年 宗本 紗季

8月16日（土）：クラスメートと最後の交流をしたイーエスコウ城

鷺別中学校 3年 外崎 愛海

8月16日（土）：ホストファミリーとの時間

緑陽中学校 3年 高畑 春花

8月17日（日）～18日（月）：デンマーク～日本帰国

西陵中学校 1年 河邊 美鈴

○研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

河邊 美鈴： 食文化の違いや言葉、生活の様子について

外崎 愛海： デンマークの生活文化について

伏見 結衣： デンマークの学校について（リングフリー校）

宗本 紗季： デンマークの幼稚園（森の幼稚園）・デンマークの食文化

佐野 玲央： デンマークの環境について

木村 来実： デンマークと日本の生活や食べ物、学校の授業風景

早坂 咲： デンマークの建築について

高畑 春花： デンマークの消費税と気候

寺谷 倫： デンマークの食文化との違い

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

- 河邊 美 鈴： デンマークの思い出
- 外崎 愛 海： デンマークの思い出
- 伏見 結 衣： デンマークで過ごしたひと時
- 宗本 紗 季： デンマークの思い出
- 佐野 玲 央： 交流事業に参加して得たもの
- 木村 来 実： デンマークでの思い出
- 早坂 咲 　： デンマークでの一週間
- 高畑 春 花： 一生の宝物
- 寺谷 倫 　： ホストファミリーとの思い出

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

- 団 長：笠 井 康 之 登別市総務部人事・行政管理グループ 人事主幹
- 引率者：冨留田 しのぶ 鷺別中学校教諭

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流を深め、日本とは異なる生活や文化を体験させることにより、生徒の人間性を豊かにし彼らの将来に良好な影響を与えると同時に、ファボー・ミッドフュン市との更なる交流推進の一翼を担うことを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、ファボー・ミッドフュン市、オーデンセ市

3 派遣期間

平成 26 年 8 月 11 日（月）～18 日（月）：7 泊 8 日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：アンデルセン博物館、図書館、レゴランド、イーエスコウ城、森の幼稚園

5 研修内容

(1) 結 団 式：平成 26 年 7 月 4 日（金）

(2) 事前研修：平成 26 年 7 月 10 日（木）～8 月 5 日（火） 計 10 回
デンマークの概要の学習、研修テーマの発表、英会話、デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

〔講師等〕

派遣 OB：伏見 堯師〔H25 年度：幌別中学校〕

坂口 太一〔H25 年度：登別中学校〕

大友 琴響〔H25 年度：西陵中学校〕

菊地 智成〔H25 年度：緑陽中学校〕

赤松 和〔H24 年度：登別明日中等教育学校〕

長谷川季里〔H25 年度：登別明日中等教育学校〕

櫻井 貴志〔H25 年度：登別市教育委員会〕

(3) 事後研修：平成 26 年 8 月 28 日（木）～10 月 9 日（木） 計 5 回
研修成果まとめ、紀行文・感想文提出、帰国報告会準備

(4) 帰国報告会：平成 26 年 10 月 24 日（金）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月04日(金)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00～19:30
07月10日(木)	事前研修①	デンマークの概要説明、研修テーマの発表、役割分担（紀行文・登別紹介・挨拶）、アトラクションの内容決定	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月15日(火)	事前研修②	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月17日(木)	事前研修③	手紙の書き方、英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月22日(火)	事前研修④	英語・丁語レッスン、アトラクション練習	市民会館/大会議室	16:30～18:00
07月24日(木)	事前研修⑤	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～17:45
07月27日(日)	事前研修⑥	派遣団OBとの懇談会	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
07月29日(火)	事前研修⑦	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
07月31日(木)	事前研修⑧	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
08月04日(月)	事前研修⑨	アトラクション練習	市民会館/大会議室	9:30～12:00
08月05日(火)	事前研修⑩	最終打ち合わせ、総練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
08月08日(金)	市長へ出発挨拶（派遣者）		市役所/市長応接室	10:00～10:30
	第2回保護者説明会（保護者）		市役所/第2委員会室	18:00～19:00
08月11日(月)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	04:20～
08月18日(月)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	17:30頃
08月20日(水)	市長へ帰国挨拶		市役所/市長応接室	16:30～17:00
08月28日(木)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月04日(木)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月11日(木)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月18日(木)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月30日(火)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
10月09日(木)	事後研修⑥	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
10月24日(金)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00～19:30

※9月11日(木)の事後研修③は、大雨特別警報の発表により中止。

○ 派遣生徒・引率者名簿

鷺別中学校	3年生	外崎 愛海
緑陽中学校	3年生	高畑 春花
西陵中学校	1年生	河邊 美鈴
鷺別中学校	2年生	伏見 結衣
鷺別中学校	1年生	木村 来実
鷺別中学校	1年生	佐野 玲央
鷺別中学校	1年生	宗本 紗季
登別中学校	2年生	早坂 咲
登別明日中等教育学校	1回生	寺谷 倫

団 長	登別市 総務部 人事・行政管理グループ 人事主幹	笠井 康之
引率教諭	鷺別中学校 英語教諭	富留田 しのぶ

○ ホストファミリー名簿

派遣者名	ホスト名・住所・メールアドレス	性別	家族構成
河邊 美鈴	Ida Kleist Hansen イーダ・K・ハンセン	女 13歳	母・ジャネット 父・ハンス・ヘンリク 弟・マーティン(11歳)
宗本 紗季	Naja Ulsæe Dyrn ナジャ・U・ディルン	女 13歳	母・リスベス 父・ゲルト 兄・サイモン(16歳) 妹・リゼット(8歳)
木村 来実	Frederikke Wilki フレデリケ・ウィルキ	女 12歳	母・ティナ 父・ヘンリク 弟・アンドレアス(8歳)
伏見 結衣	Ida Fjord Nielsen イーダ・F・ニールセン	女 12歳	母・スザンヌ 父・ソレン 姉・エマ(14歳) 姉・リネ(19歳)
外崎 愛海	Emil Hviid エミル・ヴィド	男 13歳	母・ギッテ(47歳) 父・エリック(48歳) 姉・マチルデ(14歳) 弟・ラスムス(9歳)
佐野 玲央	Christoffer Andersen クリストファー・アンダーセン	男 12歳	母・ピア 父・ブライアン 妹・カリーナ 祖父
早坂 咲	Anne-Cathrine Q.P. Nielsen アネ・キャスリン・Q.P・ニールセン	女 13歳	母・エリン 父・ソレン 弟・アレクサンダー(11歳) 妹・エマ・ヴィクトリア(11歳) 妹・ジョセフィン(2歳)
高畑 春花	Jacob Vestergård Hansen ヤコブ・V・ハンセン	男 13歳	母・アネット 父・イワン 妹・リネ(11歳)
寺谷 倫	Oliver & Andreas Johansen オリヴァ&アンドレアス・ヨハンセン	男 13歳 双子	母・リッケ 父・ジョニー 妹・フレージャ(8歳)
笠井 団長 富留田先生	Niklas Lundgreen ニクラス・ランドグリーン	男 12歳	母・マリアン(44歳) 父・ヘニング(50歳) 姉・ニコリネ(16歳)

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/11 (月)	市役所＝千歳空港 4:20 5:40	《1日目》 4:20 市役所に集合 4:30 市バスで新千歳空港へ 5:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	ホテル
	千歳空港＝成田空港 7:50 9:25	7:50 成田国際空港へ (NH2152) 9:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港＝コペンハーゲン 空港	11:40 コペンハーゲン空港へ (SK984) 16:05 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き		
	コペンハーゲン空港駅＝ コペンハーゲン中央駅	17:34 列車でコペンハーゲン中央駅へ(ØR1083) 17:48 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン中央駅＝ホ テル	18:00 駅からホテルへ徒歩移動 18:10 ホテルチェックイン ※宿泊ホテル：Ibsens Hotel		
8/12 (火)	ホテル＝コペンハーゲン中 央駅	《2日目》 9:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン中央駅＝ オーデンセ駅	10:00 コペンハーゲン中央駅で乗車 (IC133) 11:30 オーデンセ駅到着	ホスト	
	オーデンセ市内	11:30～15:00 オーデンセ駅着、道子・ペダスンさんの案内の もとアンデルセン博物館などを見学		
	オーデンセ駅＝リン ゲ駅	道子・ペダスンさんとオーデンセ駅で別れる 15:22 オーデンセ駅で乗車 (RE4650) 15:38 リング駅着 ホストと対面し、各家庭へ		
8/13 (水) ～ 8/16 (土)	リング市内	《3日目》 8:05～ リングフリー校登校 (朝会・授業参加) 13:00～ 図書館・自然運動場など見学		ホスト
		《4日目》 8:05～9:15 ノーアエア校訪問交流 9:15～ レゴランド見学へ出発 16:30 リング着。ホストファミリーの皆さんとパーティ		
		《5日目》 8:05～ リングフリー校でアトラクション披露 10:00～ 市役所訪問・市長との面会 13:30～15:00 森の幼稚園見学		
		《6日目》 イーエスコウ城見学 午後からは各自、ホストファミリーと過ごす		
		《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう ＝ 8:30 リング駅到着		
		《8日目》 9:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。		
8/17 (日)	ホスト宅＝リング駅	《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう ＝ 8:30 リング駅到着	ホスト	機内
	リング駅＝オーデンセ駅 8:42 9:07	8:42 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告 げ、列車でオーデンセ駅へ (RE2623) 9:07 オーデンセ駅着	派遣団	
	オーデンセ駅 9:46＝ コペンハーゲン空港駅 11:37	9:46 列車乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ (IC116) 11:37 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。 出国手続き。	機内	
	コペンハーゲン空港＝成田 空港 15:45～9:35 (日本時間)	15:45 成田空港へ [日付変更線] (SK983)		
8/18 (月)	＝ 成田空港 9:35 (日本時間)	《8日目》 9:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。	派遣団	機内
	成田空港＝羽田空港 11:00 12:10	11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動		
	羽田空港＝新千歳空港 14:00 15:30	14:00 新千歳空港へ (荷物受取り) 到着後、市バスに乗り		
	新千歳空港⇒市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着		

紀 行 文

8月11日（月）：出発～コペンハーゲンの初日

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 寺谷 倫

ぼくは、デンマークに行くのを楽しみにしていました。台風の影響で集合時間が早くなったり、飛行機が飛ぶのかが心配でした。なので、夜は 22 時 30 分に寝ました。

次の日、僕は 2 時くらいに起きました。すごく眠かったです。

車に乗ってから 30 分ほど寝てしまいました。市役所では出発式で、親とはケンカしていたので、ほとんど何も会話しませんでした。

バスでは、皆眠そうでした。

新千歳空港に着くと、荷物を運びました。そして、数分待ってから荷物検査をし終えたのちに、父さんがいたのでびっくりしました。父さんは東京で仕事が行くついでと、僕の宿題を届けに来てくれました。

成田に着いた後、出国手続きなどをして飛行機に乗りました。飛行機の中は広く、外国人も多く乗っていました。離陸後、映画を見ようとしたのですが、カナダの時と違い、日本の映画じゃなかったので、音楽を聞いていました。

それから、隣の大学生と仲良くなって、いろいろな話をしましたが、とにかく暇で仕方ありませんでした。することはテトリスか寝ることぐらいだったので、寝ていました。飛行機の機内食は、パンが一番おいしかったです。

着陸した後、出口のところで写真を撮り、そして徒歩で駅に向かい地下鉄みたいな列車に乗り、コペンハーゲン中央駅に行きホテルへ行きました。部屋は意外と広かったので、よかったです。それから、ロビーへ集合してチボリ公園へ向かいました。



チボリ公園に着いてから自由行動で、窓のない観覧車や、ジェットコースターなどいろいろな乗り物に乗りました。ジェットコースターは面白くて、つい 2 回乗ってしまいました。

ホテルへ向かう途中でスーパーマーケットへ寄って飲み物を買いました。

もうその時には、疲れていて足が上がりませんでした。ホテルに着いて、シャワーを入れてから、部屋に遊びに行ったりして、すごく眠たくてすぐに寝てしまいました。

8月12日（火）：オーデンセ見学～ホストファミリーの初対面

鷺別中学校2年 伏見 結衣

デンマーク2日目の朝。私達は、ホテルで6時30分に起きました。それから着替えなどをして、7時に朝食を食べに行きました。朝食は、パン、チーズ、ハム、ヨーグルト、フルーツ、チョコレートドリンクなど、ホテルの朝食は、日本にある食べ物とあまり変わらず、普通においしかったです。

オーデンセ出発まで、少し時間があったので、美鈴ちゃんと咲ちゃんの部屋に、愛海と二人で行きました。部屋で少し話しをしたあと、朝のデンマークの町へ行きました。少し肌寒く、空気は乾燥していました。やはり、デンマークだなと感じたのは、朝、自転車で通勤している人が、沢山いた事です。車よりも多かったと思います。みんなで文具のお店を色々見てまわりました。楽しかったです。



ホテルに戻った後、皆でオーデンセ駅に向いました。そこで道子ペダスンさんと合流し、駅近くのホテルに荷物を預けた後、駅内で昼食を食べました。

さて、とうとうアンデルセン博物館です。アンデルセン博物館までは、道子さんがアンデルセンの足あと案内をしてくれました。博物館内では、アンデルセンの歴史や実際の部屋、作品が展示してありました。アンデルセンの事が沢山わかり、とても勉強になりました。アンデルセンについて分かったところ

ろで、とうとうホストファミリーが待つリングゲに向かうためオーデンセ駅へ。駅のホームで道子さんと別れ電車はリングゲ駅に向けて出発しました。リングゲ駅のホームが見えてくると、ホストファミリーの人達がデンマークの旗を振って待っていました。リジーさんが歓迎の話をしてくれた後、私のホストファミリーが私を呼んでくれました。

はじめは緊張していて、不安がいっぱいで派遣団の皆と離れたくないと思いました。そして車に乗ってホストファミリーの家に着くと、家の中の説明をしてくれました。案内の後、私が緊張していると思ったのか、ホストの子がマニキュアを持ってきて「ぬる？」と聞いてきたので、私はホストの子にぬってもらいました。そして私もぬってあげました。その後、庭に移動してホストファミリーと棒を投げて棒をたおすというゲームをしました。日本にはないゲームで、とても新鮮で楽しかったです。次に一緒にテレビを見て、お母さんの料理を食べました。お米やゆで野菜、お肉など美味しいものばかりで、とても料理が上手だなと思いました。はしを用意してくれていて、ホストの子に使い方を教えてあげました。食後にお土産を渡したのですが、私がだるま落としをあげると、とても喜んでくれて何度も何度も遊びました。その後、家族と色々話した後、おやすみを言ってすぐ寝ました。

最初に会ったときには、とても緊張していましたが、ホストと1日を過ごしてみて、皆とてもやさしく、私を受け入れてくれたので安心しました。とても楽しい充実した日でした。

8月13日(水): リングフリー校初日

鷺別中学校1年 佐野 玲央



「どんなみんなに会えるのだろう？」そんなワクワクな気持ちで朝をむかえました。昨日、初めてホストファミリー達と対面。僕にはハプニングがありました。

迎えてくれたホストファミリーが、予定していた家族と違うのです。少し不安になりましたが、そんな思いを吹き飛ばしてくれたのは、温かいホストファミリーでした。そのおかげか、ぐっすり眠ることが

出来ました。朝ごはんはシリアル。8時5分に集合なのに全く行くけはいがないので、「The meeting time is 8:05.」とホストファミリーに言うと、「No, 9:00.」と答えてくれました。自然と英語でコミュニケーションが取れている！そんな嬉しさがこみ上げてきました。

いよいよ、車でリングフリー校に出発！学校に行くと、歩いて来る人、自転車に乗ってくる人、車で来る人など様々。日本とは少し違いがあることを感じました。

まず、最初の活動は、ホールに全校生徒が集まって歌をうたうことでした。英語かデンマーク語の歌で意味は分からなかったけど、「来てくれてありがとう」という気持ちは感じ取ることが出来ました。「さくら」は一緒にうたうことも出来ました。次はクラスでの活動。まずは自己紹介。名前、年、好きなこと、家族を紹介したけれどみんなの前でも、自信を持って話すことが出来ました。

次は、4～6人グループに分かれてデンマークの学校と日本の学校の違いを英語で話し合いました。デンマークは日本と比べて生徒が少ないことなどが分かりました。そして、自由時間でさくに囲まれたコートでサッカーをしました。遊びとはいえ、みんな常に本気でプレー。僕も小学校1年生からサッカーをやっていますが、かなわない子もいました。その中でも3点決めることが出来ました。



その後は、グループでリングフリー校を歩きながら見学しました。学校のしき地はとても広く、中にスポーツジムやバスケットボールのコートなどもあったのですが、一番印象に残っているのが、サッカーのコートです。サッカーコートが10面ほどあり、全てきれいな芝生のピッチでした。日本では考えられないことです。だから、デンマークはサッカーが強いんだなと感じさせられました。

最後はランチタイム。朝早くにお母さんが作ってくれた大きなサンドイッチとリング丸々1個。みんな、それぞれの家庭で作ってくれたランチを食べて午後の活動にそなえました。

8月13日（水）：午後からの見学

登別中学校2年 早坂 咲

図書館に行くために学校を出発した。集合時間は12時20分だったのだが、みんなはそれより遅れてきた。だが担任のヘレ先生は怒らなかった。デンマークは、時間に厳しい国じゃないんだと感じた。

自然運動公園に向かうため、みんなでゆっくり湖の近くを歩いた。

後から聞いた話だが、ゆっくり遊びながら歩いていたことで時間が無くなり、行く予定であった老人ホームには行けなかった。湖はきれいで、日本の川のような汚さはなかった。湖の向こうに家が見えたのだが、どの家の屋根も急で窓がついていた。

歩みを進めると木で造られた小さな橋があり、カモのような鳥がたくさんいた。ヘレ先生にパンを配られたので、鳥たちに投げ与えた。途中、その中に白鳥がやってきた。そこでしばらく遊んでいると、結衣ちゃんのホストのイーダが「Do you have a boyfriend?」と聞いて来たので、あわてて「No! No! No!」と言ったら、イーダは笑いながら去っていった。その後もみんな遊びながら歩き、13時ごろ自然運動公園に到着した。遊具の骨組みは木で出来ており、鉄棒がやたら高いのが気になった。想像していたよりあまりに小さい公園だったので湖の周りを1周したと気づいた時は、「行く必要あったの?」と思った。

13時30分に図書館に到着した。図書館の中は、日本の図書館よりも本を読む意欲がわきそうな雰囲気だった。小さな子どもにも入れるように、人形や小さな車も置いてあった。良く見てみると、本だけではなくCDやDVDも置いてあり、日本もそうしたらいいのと思った。

14時ころに解散して、ホストのアネのお母さんが迎えに来たが、図書館に用事があったらしく、私たちは長い時間待っていた。お母さんの用事が終わり、家に帰ってからおやつとしてパンが出された。それにジャムを塗って食べた。

その後、おみやげを買うために文房具屋さんとスーパーに連れて行ってもらった。



スーパーには量り売りのお菓子があり、そこには、黒いグミの「ラクリス」がたくさん売ってあった。

夜ご飯には、ひき肉とコーンが入ってチーズをかけて焼いたパイのようなパンケーキが出た。ナイフでは切りづらかったが、とてもおいしかった。

夕食後、学校へ行った。みんなが集まってきたので何をするのかと思っていると、野球をしようと言われた。結局20時30分まで野球をしていたが、そんな時間でもまだとても明るかった。11時くらいに明日のレゴランドのことを考えながら、ベッドに入った。楽しい1日だった。



8月14日（木）：レゴランド～食事会

鷺別中学校1年 木村 来実

私達は14日の朝、ノーアエア校を訪問し登別市の紹介や歌を披露しました。ノーアエア校では、学校の事をたくさん教えてもらいました。

その後、リングフリー校のクラスメイトとバスに乗りレゴランドへ向かいました。

バスの中はととにぎやかで、色々な会話やお菓子の交換で盛り上がりました。私は少し時間が経つと眠くなってしまい、気が付くと寝てしまっていて、目が覚めた頃には丁度レゴランドに着くところでした。

レゴランドでは、ホストファミリーのフレデリケやクラスの人達と見学をしました。そこは辺り一面レゴブロックで出来ていて、ブロックで作られた小さな町並みが広がっていました。また乗り物もたくさんあって、ディズニーランドに遊びに行った時のような気分で、ジェットコースターやスプラッシュマウンテンみたいな乗り物に乗る事が出来ました。周りを見渡すとすごい人で全ての物を見ることは出来ませんでした。



自動販売機を見つけた時、飲み物を買いたいと思いましたが、50クローネ（日本円で950円）ととても高かったので買うのをやめました。乗り物を楽しんだあと、フレデリケがポテトをおごってくれて一緒に食べました。その後、お店を回ってお土産を買おうと思ったけれど、あっという間に時間が来てしまい結局お土産を買い切れませんでした。

でも、思う存分遊ぶ事が出来てうれしかったです。



夕方、リングに戻り食事会に参加しました。それぞれのホストファミリーが、チキン・ハンバーグ・ハム・サラダ・ポテト等のごちそうを作って持ってきてくれました。食べた後は、滑り台や懐かしい砂遊びなどして遊びました。

そして、鬼踊りの披露が始まりました。派遣団のみんなが中心となって踊り、みんなで「カモン！レッツダンス！」と掛け声をかけると、ホストファミリーの方々も一緒に踊ってくれました。大盛り

上がりでした。とても楽しい一日となりました。

8月15日（金）：リングフリー校～森の幼稚園

鷺別中学校1年 宗本 紗季

朝、私のホストがとてものんびりしていて学校に遅刻する寸前だったので、とてもあせって、プレゼンテーションのことは一切考えていませんでした。

いざプレゼンテーションをするときには、落ち着いて練習してきたことを全て出し切り、成功することができて良かったです。リングフリー校のみんなもとても喜んでくれていました。



その後、クラスメイト3人と派遣団のみんなと、団長と富留田先生と一緒に市役所へ行きました。市長さんは温かく迎えてくれました。ある部屋に入ると、そこはとても広くて、会議室のように机が並んでいました。そこには、ジュースやコーヒー、パンなどがあり、ぜひ食べて下さいと言われていました。ジュースは炭酸ジュースばかりで、日本ではあまり見ない光景でした。デンマーク人は炭酸ジュースが好きなんだなと思いました。また、市長さんが話をしている最中に、クラスメイトの子はパンをほおぼっていました。失礼にあたるのでは？と思いました。これも文化の違いなんだと感じました。そして、一番驚いたのは、みんなは座っているのに市長さんはずっと立っていたことです。市長さんが座るイスすらありませんでした。そして、1人1つずつバスタオルのお土産をくださりました。



午後からは、私の研修テーマであった森の幼稚園に行きました。本当に森の中にあって、子どもたちは、1日4時間ほど、ここで過ごしているようで、楽しそうだなと思いました。

見学が終わると、クラスメイトやホストのみんなとショッピングに行きました。スーパーで沢山お土産のお菓子を買いました。そのスーパーの名前が「coop」だったので、日本と同じなのかなと思いました。そして、伏見さんのホストのお母さんがやっているお店の3階でケーキやパンなどを広げて、ミニホームパーティーをしました。クラスメイトが男の子ばかりだったので、とても盛り上がりました。

私はこの日初めて、家庭の手料理を食べました。お米やお肉やお魚が出ました。お魚がとてもおいしかったです。

8月16日（土）：クラスメイトと最後の交流をしたイーエスコウ城

鷺別中学校3年 外崎 愛海

ホームステイ先の人とゆっくり過ごせる最後の1日となった日の朝。少しでも長くホームステイ先の人と一緒にいたかった私は、まだ誰も起きていない午前4時に目を覚ましてしまいました。その日の朝食は、いつもの白いパンではなく、薄茶色のパンを用意されました。ホストファミリーに、とてもおいしいよ！！と英語で言われ、一口食べると、それはそれはまずくてびっくりしました。が、残すわけにもいかないので必死に食べたことをまだ覚えています。午前10時頃、ホストファミリーとその友達と一緒に車でイーエスコウ城に向かいました。



着いて車に降りると、そこにはリングフリー校のクラスメイトがいました。私は15日でクラスメイトと会えるのは最後だと思っていたので、皆とまた会えた時はすごくうれしかったです。パンフレットをもらいホストファミリーの方にパークの事を一通り教えてもらった後

は自由行動でした。私のホストファミリーのエミルは、友達と先に遊びに行ってしまったので、私は春花さんのホストファミリーと、リングフリー校で仲良くなった子と行動しました。最初に向かったのは、とても広い「迷路」でした。迷路は草壁で全て出来ていて、日本の迷路より広くて頑丈なつくりで、一度入ったら戻れないほど難しかったです。次に、目当てだったお城に向かいました。中に入ると、受付の女性が日本語のパンフレットをくれました。

どうやら、世界中の言語で書いてあるパンフレットがあるようで、とても分かりやすかったです。お城の中は博物館になっており、博物館は3階建てで、1階は主に宝石、武器、民族品や動物のコレクションが飾られていました。動物の毛皮などはすべて本物らしく銃弾の跡もついていました。2階は「音楽の部屋」や「リーボーの部屋」、「宴会場」、「ビクトリア朝の部屋」など実際に住んでいた部屋がたくさんありました。個人的にはビクトリア朝の部屋が気に入っています。3階・屋根裏は陶器が主に飾られていました。柱の間には木の人形が横たわっていました。その人形を動かすと建物が崩れるという言い伝えがあるようで、それを聞いた瞬間、すごく気味が悪くなりました。



その後、広場を往復できる馬に乗って大きな庭に向かいました。途中、大きめのアイスを食べましたが、大きすぎてとても甘かったです。庭を散歩しているとハンモックがありました。最初は、ホストファミリー達がハンモックで遊んでいて、「楽しそうだなあ」と見ていると、「あなたたちも乗ってみる？」と言われました。断り続けていましたが、もう最後だし思い切り楽しもうと思い、美鈴ちゃんと春花ちゃんの3人で1つのハンモックに乗りました。それが思った以上に面白く、ずっと笑っていました。そして、「ずっとこの場所にいたい」という思いがすごく増しました。

8月16日(土):ホストファミリーとの時間

緑陽中学校3年 高畑 春花

派遣交流6日目。私はイーエスコウ城見学後、ホストと共に家へ帰りました。その日がホストと過ごせる最終日だったので、寂しくて仕方なかったのを覚えています。



しばらく家で遊んでいると、ホストの兄妹が何か持ってきてくれました。クマの人形でした。イーエスコウ城で私のために買ってくれたものだと知り目頭が熱くなりましたが、そのときは何とか耐えることができました。そのときは、

しかしその後、家族全員が私にプレゼントをくれたのです。お父さんに手描きの手紙付きの油絵をもらったときは、嬉しさと寂しさが一気に込み

上げてきてしまい、涙を堪えることができませんでした。心の込もったこれらのプレゼント私の一生の宝物となりました。

夕食時には、派遣団の一人である美鈴がホストファミリーと共に来ました。クイトの子も来ました。食事の後は美鈴も含め4人でトランポリンをしました。デク人の2人は得意だったらしく、トランの上で宙返りや大ジャンプを見せてくれた。ふと時計を見ると9時半を過ぎてい



きませ

ントは、

ちゃん
ラスメ
ヤンを
ンマー
ポリン
れました
たこと

が衝撃でした。白夜で時間感覚が狂っていたのでしょうか。

それでも10時を過ぎると、さすがに辺りは暗くなってきます。するとホストたちが火をおこし始め、何やらキャンプファイヤーのようなものが始まりました。棒にパンの生地やマシュマロを焼いて食べました。日本の話しをしたりもしました。私のホストのヤコブはギターを弾いてくれました。彼はギターはとても上手で、音色は驚くほど綺麗でした。キャンプファイヤーが終わる頃には、もう12時になるところでした。時間を忘れてしまうほどの楽しさに興奮してしまい、結局朝まで一睡もできませんでした。

8月17日（日）～18日（月）：デンマーク～日本帰国

西陵中学校1年 河邊 美鈴

5日間一緒に過ごしたホストファミリーとも今日でお別れかと思うと、自然と涙も溢れてくる。列車が到着する前にホストファミリーとハグをして、5日前私が初めて家に行った日も家の中でイーダとママにハグされて少し恥ずかしくなったのを思い出した。あの日から、もう5日が経ったのかと思うと悲しくなったのは言うまでもない。



列車が駅に着いた。

ここでホストファミリーとも別れなければならない。いつもはにかんで私を和ませてくれた弟のマーティン、毎日美味しいご飯を作ってくれてお米も炊いてくれたママ、いつも陽気で何でも許してくれたパパ。そして私のためにたくさん気を回してくれたイーダ。ホストファミリーのみんなにはすごくお世話になった分、帰るときの気持ちはとても複雑だった。列車に乗り込む足は、来た時よりもずっと重くなっている。列車に乗ってドアが閉まった後も、私たちはずっと各自のホストファミリーやクラスメイトに手を振り続けて泣いた。



オーデンセ駅に着くまでの間、各自持たせてもらった昼食を食べた。ビニール袋を開けるとアルミホイルの包みが3つと紙が1枚、そしていつもホストファミリーが家で使っていた箸が一膳入っていた。アルミホイルの中にはそれぞれ、キャベツとオレンジとリンゴのサラダ、チキンの足の煮物、そしてお米が入っていた。私のお昼は、出発前日の夜に春花さんのホストファミリーの家におかずを持って行って晩ご飯をごちそうになった時の残り物だった。それも凄く美味しくて、最後に

食べるママのご飯だと思い、その味を忘れないように噛みしめた。そのときに私は紙に書いてある内容を読むことにした。その手紙には『Dear Misuzu!! Thank you for a nice time!! Have a nice trip home!!』と書いてあり家族4人のイラストが入っていた。その手紙を読んだ時、すごくジーンときてしまって、私はまた泣いてしまったのだった。

コペンハーゲン空港着く頃には、大体みんな落ち着いており号泣することはなかった。春花さん以外は。だが、もう少しで私たちはこのデンマークを去らなければならないと思い、「出国」という言葉を聞くと憂鬱になって、やる気が全部どこかへ行ってしまう気がした。出国手続きまで時間があつたので、1時間ぐらいショッピングを楽しんだ。私は春花さんと I♥DENMARK と書いてある置き時計を買った。



出国手続きを終えて飛行機に乗り成田空港到着後、時間に余裕があったのでデンマーククローネ(通過)を日本円に換えた。その時、団長は柱のところにキャリーバッグを置いていて換金が終わった後、「じゃあ行くよー」と自分のキャリーバッグを持たずに歩きはじめ、結衣ちゃんと愛海さんに「団長、バッグ!!」と言われるまで気づかずに、危うくキャリーバッグを置いていくところだった。

そんなこんなで成田空港から羽田空港へ向かい、羽田空港でうどんを食べた。その後、羽田空港から新千歳空港に向かい、新千歳空港で荷物を再度受け取り、迎えに来てくれていた泉さん達と合流した。その後は市のバスに乗って市役所に向かい、市役所で解散して各々家に帰ったのである。

こんな文章でまとめられてしまうほど、短かった1週間。そんななか、みんなそれぞれ色々な気持ちや思い出がぎっしりと詰まった1週間だった。この気持ちも、思い出も、学んだことも、きっと一生忘れることは出来ないだろう。そして、私たちの人生を豊かに変えてくれることだろう。

研修テーマ

食文化の違いや言葉、生活の様子について

西陵中学校 1年 河邊 美鈴

私は研修テーマとしてデンマークと日本の食文化の違いと、生活の様子や言葉について調べました。

まずはデンマークと日本の食文化の違いです。デンマークでよく食べられるものは老若男女関係なくお肉。豚、牛、鶏。そしてジャガイモだそうです。若い人はサラダやパスタなどを好んで食べます。日本と同じようにファストフードもよく食べます。マクドナルド、ピザ、タコスがよく食べられます。近頃では、ファラフェルという小麦粉で出来た皮にミートボールを挟めて食べるものを軽食としてよく食べるようです。



私が食べたものは、ミートボールの他、サラダのような野菜も小麦粉で出来た皮に入っている物で、小麦粉で出来た皮がぼそぼそしていました。頻繁に、牛肉や豚肉で出来たハンバーグのようなものにグレイビーソースをかけてジャガイモやニンジンなどを付け合わせして食べるようです。

朝ご飯では日本と同様、シリアルなどのコーン
フレークがよく食べられます。コーンフ
ク以外では、パンやパンケーキを食べま
す。日本での朝ご飯はお米派だったので、
フォークやナイフを使うというのが新
しいです。

お店を見ていて私が思ったことは、デ
ンマークの飲み物や甘いお菓子などは日本に
てカラフルなものが多いということです。
ベットののような冷たい飲み物は、ハン
ガーショップやセブンイレブンなどでよく見かけたのですが、色が赤や青、黄色、緑などたく
さんの色がありカラーバリエーションに富んでいますが、色があまりにも濃すぎて私は飲
めませんでした。



レー
す。私
朝か
鮮で
ンマ
比ベ
シャ
バー

次は生活の様子や言葉についてです。

デンマークの言葉はデンマーク語で、実際にホームステイしていて思ったことは、英語とも、当然、日本語とも全然違う言語だということです。聞いた感じだとドイツ語に近いので、ホストファミリーだけで話している時は、何を話しているのかさっぱりわかりませんでした。

デンマークで生活していて一番驚いたことは、トイレのことです。中でもトイレの便座が大きくて、お尻がはまってしまいそうになったことです。他にも、日本と同じタイプのトイレトペーパーホルダーを見かけなかったことや、デンマークはトイレとお風呂が同じ部屋にあるホテルのようなユニットバスが多くて、デパートでホストファミリーに「You go to

bathroom?』と聞かれてトイレがある場所をバスルームと呼んでいるということに凄くびっくりしました。

そして、コペンハーゲンなどの街に出ると、ポイ捨てされたゴミの量がすごく多いことや、都会も田舎も関係なく壁や建物、公共物に見たことがないくらいたくさんの落書きがあることです。こんなにゴミが落ちているなんてことは日本では絶対あり得ないですし、壁一面が落書きに埋めつくされるなんて事もあまりないと思います。ですがその反面、デンマークの家庭では、ティッシュを置いていない家が多く、ティッシュをたくさん消費しているのは日本人だけなのかなと思いました。



またおもちゃ屋さんに日本のおもちゃの『たまごっち』が、『tamagotchi』として売られていたことや、日本発祥の『ガチャガチャ』と呼ばれるカプセルトイも見かけたのでうれしくなりました。

日本との違いや共通点を探し出すことによって、デンマークに親しみを持つことができ、調べたいことをしっかり調べることができてデンマークでの交流を充実したものにすることができてよかったです。

デンマークの生活文化について

鷺別中学校3年 外崎 愛海

私は、デンマークの生活文化について調べることにしました。なぜなら、日本の文化とデンマークの文化では、何が違うのだろうと疑問に思ったのと、その違いについて実際に調べてみようと思ったからです。

ホームステイ先の家を主に調べたところ、まず、家に入ったらくつをぬがずにそのまま、



室内を歩きまわるのです。私がかつをぬいで、どこにおけばいいですか？と問うと、一瞬びっくりされましたが、すぐに優しい口調で教えてくれました。ホストファミリーも私のために気を使ってくれたのか、くつをはいたままだったのは初日だけで、2日目からは、くつをぬいでくれました。何かとても優しさを感じ、安心しました。

次に「鍵穴」も少し違いました。おとぎの国に

でてくるような魔法の鍵っぽいおしゃれでドアを閉めるようで、デンマークはとメルヘンチックだなあとつくづく思いました。

また、浴室も変わっていて、防水のカン付きのシャワーだけで、バスタブがありませんでした。トイレも、浴室とつながってドアがなく、不便な箇所が少しあります。

食べ物についても、いくつかの違いがありました。私のホームステイ先の朝食は、

たパンにジャムをぬったり、牛乳ではなくヨーグルトにコーンフレークを入れたあと、さらにチョコやジャムをのせて食べるといった、とてもとても甘ったるい食事でした。だからといって、夕食も甘いのかと言われればそうではなく、ピザやポテト、チーズやハムなどを食べ、パンと一緒に食べました。

デンマークは「ごはん」というものがないので、「パン」しかでてきませんでした。でも、「おすし」はあるといえばあるのですが、そのごはんがとてつもなくまずい。やっぱりお米は日本かな？と改めて実感しました。



な鍵でもす。一テりまていした。みら焼い



デンマークの学校について（リンゲフリー校）

鷺別中学校 2年 伏見 結衣

私が調べた事は、デンマークの学校についてです。

調べた理由は、日本の学校とデンマークの学校では、何がちがうのかを知りたかったからです。

まず日本の学校とはちがう所は、6才から15才まで同じ学校へ通うことができるという事です。0学年から9学年があります。次に、学期は2学期制で、8～12月が1学期、1～6月が2学期になっています。学校は1年間で、200日ほど行くそうです。

デンマークの休みは、春1週間夏はなんと6週間！秋1週間、冬2週間です。夏休みが6週間もあるなんて、日本では、考えられないので、とてもうらやましいと思いました。

また1回の授業は45分だそうです。

次に毎日の行事です。この学校では、毎朝、ホールのような所で歌う事です。3～4曲歌い、誕生日の人がいる場合は、誕生日の歌をうたい、生徒全員でお祝いをします。祝ってもらった人は、とてもうれしそうで、とても良い習慣だと思いました。



学校内の施設にも興味深い点がありました。学校には小さい子供もいるので、お母さん達が子供を待っている間、退屈しないようお母さん



やお父さんが雑談出来るような場所がありました。

また日本とは違い、教室の移動の際、外に出なくてはなりません。校舎が全部つながっていませんでした。

教室の中はくつをぬいてもぬがなくても、どちらでも良く、学校に携帯電話を持ってくる生徒もいて、特に厳しい校則はなさそうでした。

学校にはグラウンドがないので、休み時間には、遊具や、砂漠、サッカー場、また三輪車のような自転車に乗って遊びました。

また学校での昼ご飯も日本とは大きな違いがあります。3日目初めて学校に行った日には、まだ10時なのに、学校の広場にパンやジャム、ドリンクが置いてあり自由に食べることができ、日本とは違い自由だなと思いました。そして、ランチはもちろん給食はなく、家から持参したパンやりんご、にんじんを食べました。

デンマークでは夏にサマーミュージックというイベントがあるそうです。ここでは歌を歌ったり、ダンスを踊ったりと、とても楽しいパーティだそうです。また、毎週、日曜日には、みんなでスポーツをしたり、ご飯を食べたりして活動的に過ごすとのことでした。

デンマークの学校を調べて見ると、日本とは全然違う制度が沢山あって、大変興味深く思いました。

デンマークの幼稚園（森の幼稚園）・デンマークの食文化

鷺別中学校 1年 宗本 紗季

私の将来の夢は「幼稚園の先生」になることです。なので、デンマークの幼稚園について調べました。

私が今回訪問した「森の幼稚園」は特別な教育方針をとっており、子供たちは1日のうち4時間は森の中で自由に過ごしているそうです。小さな子が火をおこしたり、ナイフで木を切ったり、家を造ったりと自然とひとつとなって生活しています。



この教育方法によって、自然や季節を身近に感じ、のびのびと生活することができます。

デンマークの一般的な幼稚園の教育テーマは、「1人1人の発達」・「社会適正力」・「言葉」・「身体と運動」・「自然と環境」・「文化的表現と価値」の6つを基本に、見守ることを大切にしているそうです。

森の幼稚園の教育もこれに基づいていることが分かりました。

もう1つの研修テーマは「デンマークの食べ物」です。

私は日本食、特にお米が好きで、パンやコーンフレークなどはあまり食べません。日本食を離れてデンマークの食べ物を調べると、沢山の発見がありました。



デンマークでよく食べられるもの、それはじゃがいもです。私はデンマークに出発した日から帰りの飛行機まで毎日じゃがいもを食べました。デンマークのだいたいのテーマパークにはフライドポテトが売っていて、私がデンマークに居る間に4種類のフライドポテトを食べました。

また、デンマークのお弁当はワイルドでした。人参1本2本は普通、りんご1個とパンなどを、ビニール袋に入れてドンと出されます。日本では体験できないことではないので、いい体験になったと思います。

そして、デンマークといえばラクリス。私は怖くてデンマークでラクリスを口にはできませんでしたが、日本に戻ってからゆず味のラクリスを食べてみるとおいしかったです。ただ、本場のラクリスの味は甘いゴムチューブを食べているみたいだそうです。お土産にラクリスをいただいたので今度食べてみようと思います。

デンマークではいろいろなことを学びました。このことを今度生かしていきたいです。

デンマークの環境について

鷺別中学校 1年 佐野 玲央

「デンマークは環境に優しい街づくりをしている」この言葉が僕の研修テーマのきっかけとなりました。今、日本だけでなく、世界全体が深刻な環境問題を抱えています。デンマークで解決へのヒントを得ることが出来ないか、興味を持ちました。

まず思ったのは、とても自転車が多いということです。道路には自転車専用道路があり、通勤などで沢山の自転車が走っていました。車や歩いている人よりも、自転車に乗っている人が一番多いのです。それもそのはず、なんと、デンマークでは1人あたりの自転車所有台数は約1台。首都のコペンハーゲンでは、約40%の人が移動手段として自転車を利用しているのです。列車には自転車のマークが。実はデンマークは列車の中に自転車を入れることが出来るのです。そのため、列車の中には自転車がおけるスペースが沢山ありました。入口は段差がなく自転車を入れやすいような工夫がされているのです。



また街中では木などの緑が常に視界に入ってきました。そのためか、空気がとてもきれいに感じました。環境対策への取り組みについて、僕がデンマークに行き一番印象に残ったのは、風力発電機の多さです。飛行機の中からでも、列車に乗っている時でも、車の中からも、沢山の風力発電機を見ることが出来ました。なんと、僕がステイしたホストファミリーの家のすぐ前にも3機の大きな風力発電機を見ることが出来ました。デンマークは、エネルギーの20、3%を風力発電が占めています。さらに11年後の2025年には、風力発電の割合を50%に上げることを目標としています。日本が0.3%ですから、デンマークがどれだけ風力発電に力を入れているかが分かると思います。他にも、再生エネルギーでは、デンマークは太陽光発電にも力を入れています。



このように、デンマークが再生エネルギーに力を入れるようになったのは、1986年に起きたチェルノブイリ事故がきっかけです。当時、デンマークには放射能が風に乗ってきたことが大きな問題となり、原発はダメだという考えが人々に広がり、再生エネルギーに力を入れているのです。



今回は、8日間デンマークに行き気がついたことは、国民の1人1人の環境に対する高い意識です。そして、自分なりにヒントを見出すことが出来ました。「地球」に住み続けていくためには自分勝手な行動で未来は失われます。しかし、それではいけません。よりよい未来にするために1人1人が責任をもって生活することではないでしょうか？

今回、8日間デンマークに行き気がついたことは、国民の1人1人の環境に対する高い意識です。そして、自分なりにヒントを見出すことが出来ました。「地球」に住み続けていくためには自分勝手な行動で未来は失われます。しかし、それではいけません。よりよい未来にするために1人1人が責任をもって生活することではないでしょうか？

デンマークと日本の生活や食べ物

学校の授業風景の違いについて

鷺別中学校 1年 木村 来実

私は、デンマークと日本の生活や食べ物、学校の授業風景の違いを調べて来ました。日本とデンマークの時差は7時間であり、日本より7時間遅れで時間が進んでいます。こうした中で一週間を過ごして来ました。デンマークの家は、主に一階建てが多く、日本の家の約2倍位の広さがあり、となりの家とは離れていて、庭には大きなトランポリンがあって日本では見られない光景でした。家の中では靴を脱ぐ、脱がないといった両方の家がありました。部屋の1つ1つが広く、部屋数も多かったです。更に浴室は2か所あり、1つはバスタブあり、もうひとつはシャワールームとなっていました。



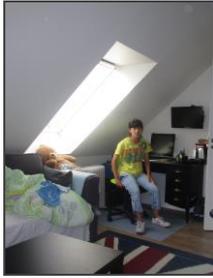
デンマークの食べ物については、朝食はほとんどがパンで固い物と、柔らかい物の2種類でバターやチョコレートがのせてありました。昼食はサンドウィッチやちょっとしたお菓子が出てきて、おやつの時間のような気分でした。夕食はお肉や野菜サラダが中心で、日本とは違い食べる時間が遅いと思いました。しかし必ず家族全員がそろって食事を取っていました。

授業風景の違いでは、毎朝、朝会があり5～6曲の歌を歌って、それから授業が始まります。教室の中は一人一人の机が無く、1つのテーブルに5～6人が座り授業を受けていて、私達が行った時にはドイツ語の勉強をしていました。黒板の上には世界地図が貼ってありクラスのみんが日本とデンマークの距離を知る事が出来ました。



デンマークの学校では日本のように給食がなく、毎日お弁当を持って来ていました。

さらに驚いたのは、みんなが私服で、中にはネックレスやブレスレットをしている子もいて、とてもびっくりでした。日本の様な校則がほとんど無く、自由なんだと驚きました。



デンマークの建築について

登別中学校 2年 早坂 咲

私は、デンマークの建築について調べました。この研修テーマにした理由は、私の将来の夢が建築士だということ、それからデンマークは高福祉国家だと聞いていたので、バリアフリーに興味があったからです。

まずデンマークの建築についてです。デンマークは厳しい西風が吹く大西洋に面していて、冬には塩水が含まれる風が吹きます。冬は摂氏0度くらいの温度なため、その塩水が窓に付き、解けたり凍ったりします。デンマークの窓は、私も実際に見ましたが木でできています。デンマークの気候は木の窓にははるかに厳しい状況です。そこでデンマークの建築基準法には、窓枠には北欧の一番北に生えている木の芯部分を70%使うように定められています。芯部分はやにが多くて腐りにくくその部分を外側に向ければ水を弾くからです。さらに木は紫外線にも弱いため必ず紫外線をカットする塗料も塗らなければなりません。

また、断熱材にはロックウール断熱材というものがあります。特に外断熱に効果を発揮するもので、その特長は、①1200℃の熱を2時間当てても燃えない ②水を吸わない ③呼吸ができる ④硬いので崩れにくい などです。家全体をこれで囲むことにより、魔法瓶のようにして全体を紫外線、火災、雨水、害虫、騒音から守っています。そうすることで家の寿命は百年以上になり、また家の周りを10cmの外断熱で囲むことにより冷暖房費を通常の家より50~70%削減できるのです。

私がステイしたお宅の断熱材は日本と同じようなもので、代わりに壁には漆喰が塗られていました。漆喰も呼吸をするので、きっと快適な住空間でしょう。

デンマークの床材は、なるべく自然素材で木が呼吸できるものを使うため、ウレタン塗装は禁止されています。ただそのままだと汚れてしまうため、ソープ剤を使い手入れをします。そうすることで木の風合いが増し、自分の家に愛着を持つようになるのです。

デンマークの家は屋根が大きく、大体の家は二階部分にまで屋根が張り出しており、屋根に窓が付いていました。これは私の推測なのですが、デンマークの冬はあまり雪が降りません。傾斜のある屋根でも雪が積もらないので日本のような落雪による事故もほとんどないでしょう。またヨーロッパは地震が少ないので、トタン屋根でもない大きな屋根が落下してくる可能性も0に近いのではないかと思います。だから瓦のような屋根材で作られた傾斜のある大きな屋根なのではないかと思います。また、リングゲの町には屋根が茅葺きのように草でできた家も多くありました。ステイ先のお宅は、増築をしているようで、古い部分は1960年に建てられたそうです。上記にも紹介したとおり、デンマークの家は過ごしやすい快適な家が多いようです。そのため、家族の生活形態が変わっても家は立て直すものなのではなく増築や減築をするものなのでしょう。家に愛着を持っている=家を建て直さない=資源を使わない=エコ、なのです。また、建て直さなくてもいいような強度のデンマークの家は素晴らしいと思います。



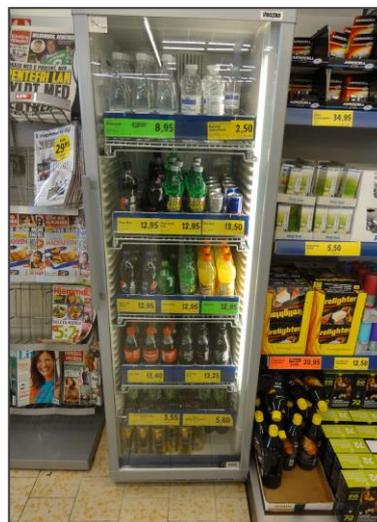
デンマークの消費税と気候

緑陽中学校 3年 高畑 春花

消費税 25%。これだけ聞くと、デンマークの消費税は大変高く感じられます。しかし、この国にはそれすら気にならなくなる程の、驚きの制度があるのです。

現在、日本で大学までにかかる一人分の教育費用は、約800万円ほどと言われています。

デンマークではなんと、その大学までの学費が全て無料になるのです。それだけでなく、医療費までもが無料になるのです。永住するなら、これほど心強いことはありません。デンマークが、「国民が世界一幸せな国」と言われているのも納得できますね。今回の派遣団達のように短期間の旅行者にとっては、ペットボトルコーラが一本300円以上の世界には言葉が出なくなります。



次はデンマークの気候についてです。基本的には登別と同じような天気なのですが、平均的な気温が登別より少し低いようで、朝方は晴れていても、長袖の服を着ていないと凍えそうなほどでした。昼になると気温は上がりますが、特別暑いと感じることはほとんどありませんでした。一日の温度差が大きく、日本でいう秋の初めのような感覚です。そして私がデンマークで最も多く経験したのは、恐らく霧雨です。本格的に降ってくるこ

とはほとんどありませんでしたが、一日に2、3回ポツリポツリと柔らかな雨が降る日が多かったように感じます。ただ、デンマークは国の周辺を流れる暖流の影響を受けて、高緯度の割にヨーロッパ周辺の地域の中では温暖な国なんだそうです。

今回、デンマークの消費税と気候を調べて、私は今まで知らなかったデンマークの文化を少しでも知ることができたと思います。これからはさらに知識を深め、今より多くの知識を身につけて、改めてデンマークを訪れたいです。そうすることでもっとこの国を、あらゆる方向から見ることができると私は思うのです。

デンマークの食文化との違い

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 寺谷 倫

ぼくは、デンマークの食文化が日本の食文化とどのように違うのかについて調べました。お世話になったホストファミリーのお宅でいただいた食事の内容を書きたいと思います。一日目の夜はグラタンでした。中には、魚とマカロニが入っていました。二日目の朝は、パンでした。パンの上に、薄いチョコレートの板をのせたり、ジャムやチーズをはさんで食べました。昼食にお弁当を持たせてくれました。僕のお弁当は、ハムと野菜をはさんだパンでした。その日の夕飯はマカロニの上にミートソースがかかった料理でした。三日目も朝食と昼食は同じメニューで、パン食でした。その日は、夕方から学校で催されたパーティに参加しました。料理は参加した家族の持ち寄りだったので、様々な家庭料理を食べることが



できました。

四日目も朝食・昼食は同じもので、夜はホストファミリーのお父さんが焼いて作ってくれたピザでした。

五日目の朝食・昼食は同じで、その日はホストと過ごす最後の夜とのことで、夕食には鶏をローストしてくれて、パンとシチューとご飯も一緒にだされました。最終日の朝は、いつもと同じパンで朝食をとりました。

デンマークのホストファミリーのお宅で六日間過ごしてみると、朝食や昼食にはパンを食べることが基本で、夕飯はバラエティ豊かな食生活を送っているんだと思いました。

日本では、朝食にはご飯やパン、昼食にはご飯、夕食にもご飯、とご飯が主食で本当によくご飯を食べています。

デンマークでもご飯（白米）を食べる機会があったのですが、日本の白米に比べてパサパサしていると思いました。日本の白米とは全く違う感覚のお米でした。またデンマークでよく食べられているパンは日本に一般的に食べられている角食パンとは異なり、かみごたえのあるかたいパンでした。またそれ以外にも、日本ではみかけない珍しいものがありました。ヨーグルトのような牛乳に似た飲み物が牛乳パックのような紙容器に入っているもので、日本のヨーグルトより少し甘い感じがしました。パンにしても白米にしても日本のものとは質感や味の違いがあるなと感じました。



今後、違う外国に行く機会があれば、また食文化の違いについて着目してみようと思いました。

感想文

デンマークの思い出

西陵中学校 1年 河邊 美鈴

まさか自分がデンマークで泣くなんて、思ってもみなかった。

私はデンマークに行く日も母親にいつもの寝起きの悪さを発揮して、朝の4時から物凄く機嫌が悪かったはずなのに、市役所を出る頃にはすっかり機嫌もよくなっていました。バスに乗っても飛行機に乗ってもなかなか実感が沸かず、ようやく実感が沸いたのは、初日の宿泊先のホテルから歩いて3分ぐらいのところにある文房具屋さんに行って定規を買うときに自分だけで買うことが出来なくて、早坂さんに手伝ってもらった時でした。その時に、私は言葉や食べるものより苦勞するのは、お会計だと気が付きました。

リング駅で初めてホストファミリーに会うとき、自分を家族として受け入れてくれる人たちはどんな人たちなんだろうと考えていたら、緊張する前に列車がリング駅に着いてしまいました。ホストファミリーのイーダと挨拶して車まで案内されて、家族全員と顔を合わせた時、今までの楽な気持ちが一気に緊張へと変わりました。実はあんまり英語が話せないし初めて会った人に積極的に話し掛けるのが苦手なタイプだったので、自分に自信が無くなり



かけていました。けれどもホストファミリーは、そんな私のことを気に掛けてくれて、簡単な英語で話しかけてくれたり、質問も Yes か No の二択で答えられるようにしてくれたり、アプリでデンマーク語や英語を日本語に訳してくれたりしてくれて、私はそういう心配りがすごうれしくて、少し自信を取り戻すことが出来ました。

どこに行っても私に合わせてくれて、気をまわしてくれて私を手伝ってくれたイーダ。迷惑だよなあと思って「ごめんなさい」って言っても、「気にしないで」と笑ってくれていて申し訳なかったけど、とてもうれしかったです。

家族のみんなでふざけたり、笑ったり、踊ったり。ママが美味しいご飯を作ってくれていたことも今となってみれば、いつの間にか『一生の思い出』だと言えるほど時間が経ってしまっていて実はまだ驚いています。あのことは夢だったんじゃないかと、まだ信じられていない自分もいます。でも、ホストファミリーがくれたお土産のデンマークの国旗を見ると「やっぱり夢じゃなかったんだ」と一気に現実に引き戻されて悲しくなります。大変だったことや恥ずかしかったこともありましたが、また何度でも行きたいと思えるほど、それだけ長いようで短く、充実した5日間を過ごすことが出来ました。

いつか、イーダを含めホストファミリーに私がしてもらったこと以上の恩返しをしたいです。そして自分の気持ち、思いを自分の言葉で伝えられるようになって私の住んでいる日本、その中にある北海道の小さな街にある私の家にも招待出来る日がいつか来ると信じてデンマークでの生活で学んだことをしっかり吸収し、知識や出来ることを増やし、ひとまわりもふたまわりも成長し笑顔で再会出来るように、日進月歩しながら日々の生活を大切に生きていこうと思いました。



デンマークの思い出

鷺別中学校3年 外崎 愛海

「まだ着かないの？」10時間以上飛行機に乗って退屈していたあの時に戻りたいと、今でも思うほどとても楽しく、とても短く感じた1週間。

1日目はコペンハーゲンのチボリ公園で遊んだ。私は、絶叫系の乗り物が大好きなので、初ジェットコースターの人や怖がる人と一緒に乗りまくった。日本とは違った迫力があり、とてもおもしろかった。

2日目は、道子さんと会い、アンデルセン博物館を訪れた。そして午後、とうとうホストファミリーと対面する時が来た。私は、これから起こるとても楽しい5日間なんて想像もしていなかったので、不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、そんな気持ちは一瞬でなくなるくらい優しく私を受け入れてくれて、すごく大きな家を、私のホストファミリーのEmilとその友達ニコラスが案内してくれた。その後、広い庭でバドミントンをしたり、トラクターに乗せてもらって、牛やにとりの周りを何周もしたり、外国版のWiiを対戦したりと、あってまだ日もたっていないのにすぐ打ち解けることができ本当によかった。

3日目は、リングフリー校に行き、クラスメートと自己紹介を英語で交わした。それから、学校のまわりや室内を案内してもらった。クラスメートはすごく陽気で明るく、面白い人達ばかりで、休み時間の間でほぼ全員に話かけることができた。



4日目はレゴランドにクラスメート達と行った。グループ分けで私だけ日本人という、とてもつらい班になってしまったが、班のみんなが一生懸命、慣れない英語で話かけてきて

くれて本当にうれしかった。おかげで、沢山の乗り物にも乗れ、デンマークの人達と楽しむことができた。夕食からは、食事会があった。私のホストマザーが作ってくれたパイは、とてもおいしくて、ひそかに感動したことを今でも心に残っている。

6日目は、マリパークのモデルとなったイーエスコウ城に向かった。クラスメートと遊べる最後だったので、思い切って春花と仲良くなったクラスメート数人と、一緒に行動した。迷路をまわったり、イーエスコウ城に行ったり、とても大きいアイスを皆で食べたり、途中、春花と美鈴とかえるの合唱をしたり。とても充実した1日でしたが、これで最後だと思うとすごく悲しくなり、まだここにいたい、という気持ちが次第に大きくなってきていた。

ホストファミリーと過ごす最後の1日は、ニコラス家でピザを作った。私とヨナスとエミルとニコラスの4人で盛りつけたこと、その最中にトランポリンでヨナスが転んだこと、今でも覚えている。

そしてとうとう最終日。朝早くからホストファミリーの車で駅まで向かった。向かう途中に皆から手紙をもらい、その時点で泣くのをこらえていたけど、優しく抱きしめられたと



たん、目から大量の涙がでてきて、「ああ、こんな楽しい日々を過ごしていたのか。」と、心から思った。

この1週間、私は数えきれないほどたくさんのことを学んだ。そして、この1週間で学んだことや経験したことをバネに、将来の夢に向かい、それらを生かしたいと思う。

そして、派遣団のメンバー。事前研修では、ほとんど会話をする事がなかった人ともこのデンマーク交流事業で、一気に皆と距離を縮めることができた。一緒にクラスメートのあだ名を考えてくれたり、バレー中やショッピング中に変な発言で笑わせてくれたり。今年、一番笑ったんじゃないかってくらい笑った。本当にありがとう。



デンマークで過ごしたひと時

鷺別中学校 2年 伏見 結衣

デンマークに着いた時、日本とは全然違う街の風景に、私は感動しました。見るものすべてが、きれいなものばかりでした。着いてすぐ、皆でチボリ公園に行きました。ここには、色々な乗り物があり、皆で楽しみました。

2日目、とうとうホストとの対面です。駅でホストのイーダとそのお母さん、そして、お姉さんのリネが出迎えてくれました。ホストの人達はとてもやさしく話しかけてくれました。緊張していたのも忘れ、途中からはとても楽しくなってきました。ネイルをし合ったり、庭で遊んだり、折り紙をしたり、私が持っていったるま落としで遊びました。



3日目イーダと一緒にリングフリースクールに行きました。クラスメートと自己紹介をした後、クラスメート全員で図書館に行きました。とても広い図書館で、うるさくてもあまり怒られません。ここでクラスメートがかぶり物をかぶってふざけ合ったりして楽しかったです。その後、イーダと私とナジャと紗季ちゃんと一緒にオーデンセヘショッピングへ行きました。服を見たり雑貨を見たり、自由にトッピングできるアイスを食べたりしました。

その夜、紗季ちゃんとナジャが私のホストファミリーの家に泊まりに来ました。一緒に庭で遊んだり、サッカーしたり、ネコと遊んだりとても楽しかったです！

4日目レゴランドへ行きました。出入口からレゴがあり、中に入るとさらにレゴのできた街や、人、レゴランドすべてがレゴだらけでした。ここでは、ジェットコースターに乗りました。とてもとても楽しかったです。帰ってから食事会で、夜9時位まで学校の遊具、砂場で遊びました。

5日目、市役所で市長さんに会い、幼稚園に行きました。学校が終わるとクラスメートの色々な人と日本の派遣団計13人くらいでリングにおみやげを買いに行きました。めずらしいお菓子が沢山ありました！

帰ってからホストとスポーツセンターに行きました。するとクラスメート全員が集まっていて、皆でバレーボールを楽しみました。すごく楽しかったです！！その日帰ってから大きいレゴとゴムで作るうで輪のキットをもらい、一緒にうで輪を作りました！！難しかったけどかわいく出来ました。

6日目、イーエスコウ城では、イーダとフレデリケとナジャ、私、紗季ちゃん、来実ちゃんまで回りました。馬に乗ったり、城内を見学したりしました。すてきな雰囲気、楽しかったです！！ここで団長がクラスメート3人と私達3人にアイスをおごってくれました。帰ってからは、ホストファミリーとお寿司を作りました！私が作り方を教えてあげました。イーダがわさびを知らなかったの少し手につけてなめてみてと言い、なめると、とてもつーんとしていて、おもしろかったです。初めは寿司にチーズや、マヨネーズを入れようとして

いたので、私は入れないと言いました。のり巻きやえびのお寿司が完成しました。とても上手く出来たので食べてみると、なんと酢が足りなかったです！ぜんぜん酢が利いてなくて残念でした。でも一緒に作れたことは、とても楽しく、日本の文化を伝えることができました。

7日目、あっという間にこの日が来てしまいました。お父さんとは、車庫でお別れしました。駅に着き、夜に内緒で書いた手紙とゴムのうで輪を渡しました。別れはつらすぎて、私は泣いてしまいました。そんな時もお母さんやイーダは、やさしく、また会おうねと言ってくれました。電車の中から、最後の最後まで手を振りつづけお別れしました。

デンマークに行った日々はとても楽しく、友達が沢山できました。デンマークがとてもとても大好きになりました。またいつかデンマークへ行きたいです！！



デンマークの思い出

鷺別中学校 1年 宗本 紗季

私はデンマークで沢山のことを学びました。

私は特に日本との違いを自分で感じてこられたことがとても良い経験になりました。

食事は、朝はパンやコーンフレークが主食で、パンにはジャムやチョコクリームをたっぷりぬったとても甘い朝食でした。私はパンよりもご飯が好きなので、食べられない食事で少し大変でした。昼はカップラーメンとお菓子和フルーツの日が多かったです。たまに、パンやにんじんが入っていることもありました。夜はじゃがいもや牛肉、魚がよく出ました。一度、お米をたいてくれたので食べましたが、細かくてパサパサしていて、おはしでつまむのが難しかったです。日本食が好きな私にとって、食事が一番大変なことだったと思います。改めて日本食のありがたさにも気づくことのできるいい機会でした。

デンマークの人は、みんなおおらかで、時間やきまりをきっちり守るというよりは、なんとでもなるというような考えの人が多くてとまどいもありましたが、私が失敗してしまった時でもあまり気にせず、優しく対応してくれたので、失敗を恐れずいろいろな事にチャレンジすることができました。とにかく、デンマークの人はみんな温かく、優しくしてくれたので、すごく心にしみました。

デンマークの街並みはとてもきれいでした。特にコペンハーゲンのカラフルな建物は写真で見ていたものよりもきれいで、驚きました。



そして、ホストファミリーと過ごした6日間。貴重な体験を沢山させてもらいました。

乗馬やショッピング、馬車に乗ったりと、楽しいことをしてくれました。最後にはキャリーバッグに入りきれないほどのお土産までもらってすごく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

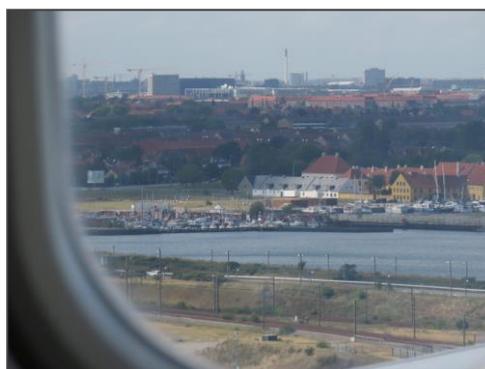
長かったようで短かった7泊8日。最初の2日間は「夢なんじゃないか？」とデンマークにいることに実感がわきませんでした。でも、あっという間に帰ってきていました。今、振り返ると、いろいろありすぎて振り返りきれません。この7泊8日は一生忘れられない思い出です。

交流事業に参加して得たもの

鷺別中学校 1年 佐野 玲央

初めて海外で過ごしたあの8日間は、今でも忘れることが出来ません。僕が持っていたデンマークのイメージといえば、「レゴランド」くらい。だから、何があるのだろう？と、とてもワクワクな気持ちでむかえました。

初海外の僕にとっては、初めてのことばかり。パスポート、国際線、そしてデンマーク。約10時間の長いフライトが終わり、やっとデンマークが見えてきた。あのとときのワクワクといった言葉には言い表せません。初の海外に来たんだという実感がわいてきたからです。



デンマークの第一印象はとても街がきれいだなということです。一つ一つの建物がレンガ造りで日本ではあまり見られないことです。なかにはとてもユニークでオシャレな建物も見ることが出来ました。

次にコペンハーゲンで思ったことは、街が少し『汚い』ということ。道路にはタバコなどのゴミが沢山あるし、落書きが至る所に。せっかくきれいな街なのに、もったいないと感じました。そして、僕は少しこわい思いもしました。小道を歩いていると、何か変わった衣装を着ていたので、写真をとると、「マネー。マネー。」と言われたのです。その後、冨留田先生に関わらない方が良くと教わりました。

2日目はいよいよ楽しみにしていたホストファミリーと対面。「笑顔」ということを大切にホストファミリーのヴィクターを探しました。「Are you Victor?」と聞くと「Yes! Reo」と



笑顔でむかえてくれました。しかし、ここでハプニングが。ホストファミリーが予定していたファミリーと違ったのです。初日はどうしようと思いましたが、新しいホストファミリーが温かく接してくれたので、気持ち良く過ごすことが出来ました。自分の知っている英語でも、ホストファミリーにはしっかり伝えたいことが伝わり、「英語しゃべれている」そんな実感がわいてきて、とても嬉しかったです。

リングフリー校では、クラスメートが積極的に話しかけてくれました。デンマークの学校は広くて、中にスポーツジムや沢山のサッカーコートなどもあり、休み時間にはいつもみんなでサッカー。遊びとはいえ、みんな常に本気でプレー。僕も小学校1年生からサッカーを習っていますが、かなわない子もいました。サッカーが出来る環境が整っているから、デンマークはサッカーが強いのかなと感じさせられました。

今回、デンマークではチボリ公園やレゴランド、イーエスコウ城などに行ったけれど、一番印象に残っているのは、やっぱりホストファミリーと過ごした時間です。お父さん、お母さん、おじいちゃん、妹、そしてカスタファーとヴィクター。みんなが僕をあたたく、そしてやさしく迎え入れてくれました。

僕は今回の8日間で得たものがあります。それは、言葉も生活も文化も違うデンマークでしっかりやれたという自信です。でも、世界にはもっと沢山の国があります。今回の研修で他の国にも行ってみたいという思いが出てきました。そして、将来、日本だけではなく、世界にかかわる仕事につきたいという夢を与えてくれました。

今回、僕たちが素晴らしい経験が出来たのは、派遣事業の関係者の皆様や、先生方、そして家族など、沢山の人の協力があって、出来たと思っています。本当にありがとうございました。



デンマークでの思い出

鷺別中学校 1年 木村 来実

私は、出発前日はワクワクして眠れなかったのと、本当に行けるのか不安でした。それは台風の影響があったからです。しかし、朝になると風は収まり、4時に市役所へと向かいました。バスを待っている間、貴重品は大丈夫かなと心配でした。バスに乗り千歳空港到着、いよいよだなあと思いました、飛行機は無事離陸し、デンマークへの旅が始まりました。千歳から成田、そしてコペンハーゲンへと、とても長い時間だったけど無事に到着する事が出来ました。

1日目。初めてのデンマーク、ホテルに着いてからチボリ公園に行きました。

チボリ公園は広く、ジェットコースターや観覧車などがありました。ジェットコースターは楽しくて2回も乗ってしまいました。ホテルから見る景色はとてもきれいでした。

2日目。電車でオーデンセ駅まで移動し、道子ペダスンさんに会い、アンデルセン博物館を見学しました。アンデルセンと自分の足の大きさを比べてみて、アンデルセンの足の大きさにびっくりしました。その後、リング駅でホストファミリーと対面し車でファミリーの家へ行きました。家へ着いてから私は日本からのお土産を手渡しました。私の言葉がきちんと通じるか不安もあったけど、みんな分かってくれたので安心しました。



3日目。朝、車でリングフリー校まで送ってもらい教室へ、慣れないながらも少しずつ会話をし、友達を作る事が出来ました。みんなとても優しく色々遊んだりしました。

4日目、5日目と楽しい時間は過ぎて、6日目、最後のホームステイの日となりました。紗季と紗季のホストファミリーが遊びに来ました。家の庭でトランポリンをしたり、一緒にご飯を食べたり、買い物に行ったりと、

紗季のホストファミリーとも仲良くなる事が出来ました。その夜、フレデリケが私の家の電話番号を教えると言って、家に電話をかけさせてくれました、家族みんなの声が聞けてとても安心しました。そして、お別れの日がやって来ました。すぐくつらかったけどホストファミリーが笑顔で見送ってくれたのが、とてもうれしかったです。デンマーク派遣での一週間はあっという間でしたが、私はたくさんの思い出と多くの事を学ぶ事が出来ました。最後に、このような機会を与えて下さった皆さんにとっても感謝しています。



デンマークでの1週間

登別中学校2年 早坂 咲

あっという間に過ぎてしまったデンマークでの日々。たくさんの思い出ができた。

1日目。デンマークに着いたのは日本が深夜の時間だったが、まったく眠くなく、ただわくわくしていた。空港に着いたときはまだ実感がなく、“実はここは日本のどこかの空港なのではないか”と思ったりもした。チボリ公園ではフリーフォールに乗り、落下するまでの間、コペンハーゲンの町が一望できた。とてもきれいだった。

2日目、オーデンセの町を見学したあと、ホストファミリーと対面。メンバーの中には、「緊張する…。会いたくない」といっている子もいたが、その子も最終日には寂しいと言っていた。ホストのアネは、私よりも身長が低くて驚いた。夜ご飯の後にお土産を渡すと、すごく喜んでくれた（特にコアラのマーチ）。また、その日はみんなすごく寝るのが早く、子供達は21時には寝ていたので驚いた。

3日目。図書館に行き、帰っておやつを食べた後、買い物に連れて行ってもらった。スーパーには何種類ものラクリス（黒いグミのようなもの）が売っていて、やっぱりデンマーク人はラクリスが大好きなんだなあと思った。夜ご飯の後学校に連れて行かれ、何をしようかと思っていたら、20時30分まで野球をやった。その時間でもすごく明るくて驚いた。

4日目。レゴランドは意外に時間が少なくて、スリルのある乗り物には乗れなかったが、レゴブロックで作られたミニチュアサイズの家がすごく端正にできていて感心した。その後の歓迎会では各家庭が料理を持ち寄っていて、外国っぽいなあ、と思った。

5日目。森の幼稚園を見学した後、クラスメートと買い物に行った。途中で雨が降ってきたので、クラスメートの家のお店に避難した。すると、晩ご飯が入らなくなるんじゃないかというくらいたくさんおやつを出された。とても楽しかった。



6日目。イーエスコウ城に行った。ドラキュラ屋敷みたいなのところがあって、そこで怖がっている子をみんな面白がっていた。動かしたら城が沈むといわれている木の人形は、顔が見えなくて不気味だった。ホストからももらったサンドイッチを落としてしまい困っていると、紗季ちゃんのホストのナジャがチョコサンドをくれた。やさしいなあ、と思った。夜ご飯の後、アネ、妹のエマ、弟のアレクサンダーと遊んだ。何とか「かごめ」を伝えて一緒に遊んだ。縄跳びのあや跳びや交差跳び、二重跳びなどを見せると、エマが頑張っ



て真似しようとしていた。

7日目。ホストやクラスメートとの別れは本当に寂しかった。日本に連れて帰りたいぐらいだった。泣いている子も何人かいた。

デンマークは自由で、環境もよく、とてもすばらしい国だと思う。このような国にステイでき、やさしいクラスメート達にめぐり合えて本当によかったと思う。大人になったら絶対にまたデンマークを訪れたい。

一生の宝物

緑陽中学校 3年 高畑 春花

「忘れ物とかしてないよね…」

出発日の朝、私は山のような荷物とひたすら格闘していました。何度確認しても何か忘れ物がある気がしてならなかったのです。拭いきれない不安と共に、私はデンマークへ出発しました。

いざコペンハーゲンに着いてみると、私は胸が躍りました。ドラマで見るようなヨーロッパの街並みに、溢れ返る外国語。今までずっと憧れていたものが、目の前に広がっていました。

1日目にはほとんど英語を使わなかったこともあり、ホストファミリーとの対面は不安の大きなものでした。列車を降りると後ろから誰かに肩を叩かれました。振り返ると、お腹。見上げることで初めて私は 185cm のホストファミリーと対面したのです。不安と緊張で半笑いを繰り返す私を安心させようと、車の中ではホストが沢山話しかけてくれました。家に着くと、ワンちゃんのクーパー君も私を迎えてくれました。私のワンちゃんより3倍は大きかったものですが、人懐っこく優しい瞳が印象的でした。



翌日、ヤコブとリネと一緒に学校へ行きました。クラスメート達は初対面にも関わらず、フレンドリーに話しかけてくれました。しばらくすると、ヤコブとその友達が校内を案内してくれました。2人の丁寧で分かりやすい説明で、校内の配置を大体覚えることができました。放課後にはみんなで買い物へ行ったり遊んだりしました。会って間もないはずなのに、まるで昔からの友達のように馴染んでいました。その後

もレゴランドやイーエスコウ城へ行きましたが、クラスメート達と回れたことが、何より楽しく、嬉しかったです。

それだけに、別れは辛いものでした。最終日のオーデンセ駅には、ホストファミリー達だけではなく、多くのクラスメート達も来ていました。一人一人の顔を見るたびに胸が苦しくなり、声が出なくなりました。「別れたくない」とあんなに強く思ったのは、今までで初めてです。

「また会おうね。」

そう約束して、私はみんなと別れました。この経験や出会った友達は、私の一生の宝物となりました。



ホストファミリーとの思い出

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 寺谷 倫

平成 26 年 8 月 11 日から 8 月 18 日までの間、ぼくは、デンマークに滞在した。
楽しすぎて時間がたつのが早く感じたがそれも僕の思い出だ。
デンマークへ到着したとき、ぼくはこの 1 週間が楽しみで仕方ありませんでした。
チボリ公園では、ジェットコースターに乗りました。
1 日目はとても長く感じました。



次の日、ホストファミリーと初めて会って家に行きました。家に着くとアンドレアスの部屋を借りて、お父さんにあいさつしました。

その後、お母さんと妹にあいさつしました。
日本のお土産をあげると喜んでさっそく食べていました。

その後、すぐにトランポリンをして、それから学校にサッカーをしに行きました。少しなじめてよか

った。

次の日、パンを食べてから学校へ行った。

朝会を終えてから授業で自己紹介をした。この時、みんなと仲良くなれてよかったです。

その後はグループで行動して街のことを教えてもらいました。

次の日は、朝起きてパンをもらって学校に行きました。レゴランドへ行って帰ってくると、パーティーがあったので行ってから寝ました。

次の日は、朝からアトラクションの発表がありました。少し緊張したけれどうまくいっ



てよかったです。

次の日は、朝メズとメルゴが家に来て車でイーエスコウ城へ行きました。思ったより迫力が大きかったです。家に着くとご飯がありました。聞いてみると最後の夜なのでご飯にしてくれたそうです。

朝、いつもより遅く起きました。朝ご飯を食べてから駅へ向かっている途中この 1 週間がすごく早く感じました。



そして、別れる時が来て、ぼくは笑顔で別れられてよかったです。

なぜなら、泣きじゃくっている姿を見せると、相手も心配してしまうから。

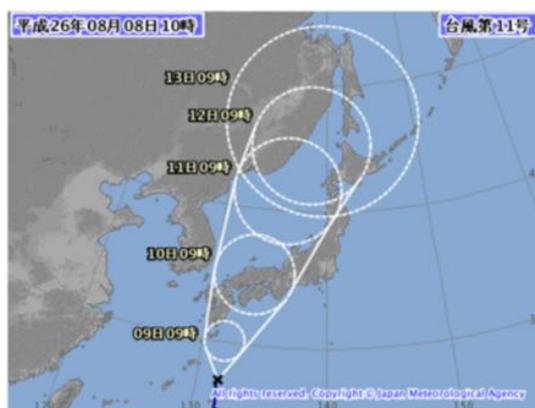
家に着くと僕は久しぶりに日本食を食べました。そして夜寝て昼の 12 時に起きました。
この経験は、大人になっても忘れないで生かしていきたいです。

引率者報告書

平成 26 年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長 登別市総務部人事・行政管理グループ 笠井康之

「新千歳空港から成田空港へ向かう飛行機が欠航あるいは大幅に遅れた場合は、今年度の事業は中止になります。」このような説明が、派遣団がデンマークに出発する直前、8月8日（金）の保護者説明会の際に保護者に対して行われた。この時、大型で強い台風11号が日本列島に近づいており、派遣団が出発する8月11日（月）午前北海道に接近することが予想されていた。台風の進路によっては、新千歳空港発の飛行機に欠航や遅れが生じ、事業が中止になってもおかしくない状況であった。



➤ 8月11日（月）

デンマーク出発の日。朝2時30分起床。すぐにカーテンを開け、外の様子を確認する。暗闇の中、風と雨が強いのがわかった。

この日は高速道路が通行止めになっても対応できるよう、出発時間を1時間繰り上げの午前4時40分としていたため、自宅を3時40分に出る。途中、NHKニュースで「空の便はほぼ正常に運行」と言っていたので、無事出発できるのではという希望がふくらんだ。

集合時間の4時20分までに、9人の生徒と富留田先生、全員集合。市役所1階ホールには、生徒の家族や先生、職員など数十名の方々が、未明にもかかわらず、見送りに来てくれていた。

私から出発の挨拶の後、生徒を代表してリーダーの愛海さんから「台風に負けないで行ってきます！」の挨拶で新千歳空港へ出発する。

途中の高速道路は台風の影響で50キロ規制だったが、無事に6時頃に新千歳空港に到着した。6時半に空港ビルがオープンしたので、みんなで出発ロビーへ向かう。出発ロビーで成田空港行き全日空2152便の出発予定を確認すると、予定通り7時50分出発になっている。大丈夫そうだ。

見送りの上野主幹、打田君、泉さん、JTBの高野さんに挨拶をして、7時に搭乗ゲートに入り、7時40分に搭乗。飛行機は滑走路を8時過ぎに離陸し、どんよりとした雲を突き抜けた。この瞬間、やっとデンマークに行けることを確信できた。

成田空港へは時間どおり9時半頃に到着する。第2ターミナルに到着後、日本円からデンマーククローネへ外貨両替をして、11時10分まで自由行動にする。

コペンハーゲン空港行きのスカンジナビア航空984便は、12時少し前に成田空港を離陸した。飛行機内では、13時半に昼食（俵型のごはん、てりやきチキン、枝豆とレタスのサラダ、丸いパン、バター、クラッカー2枚、チーズ、デザートのカッキー）、18時に軽食（おにぎり1個またはサンドイッチ）、21時に軽食（四角いパン、バター、ほぐした鶏肉と干し

ブドウのマヨネーズあえ、キュウリとレタスのサラダ、紙パックのリンゴジュース、チョコプレート) が提供された。子ども達は、寝ていたり、座席前についているモニターでゲームをしたりしている。それにしても飛行機の11時間は、退屈だし、体の自由もきかないので、長くて辛かった。コペンハーゲン空港には22時40分に到着。現地時間では15時40分。時差はマイナス7時間。予定より25分早いとのアナウンスがあった。

空港の荷物受取り所で現地アシストの上田ひとみさんと合流する。上田さんには今日と明日、そして帰りの17日にお世話になる予定。コペンハーゲン空港駅まで建物内を移動し、宿泊ホテル最寄りのノアポート駅まで列車に乗る。車内は通勤時間と重なり混雑していた。ノアポート駅から宿泊先のイプセンホテルまでは400m程の距離であったが、歩道が石畳だったので、子ども達がスーツケースを引っ張って歩くには大変だった。ホテル到着後、チェックイン手続をして荷物を部屋に入れてから、チボリ公園に行くため、すぐにまたノアポート駅に向かう。デンマークの列車の切符は、時間単位で使用できるようになっていて、1時間

以内であれば、先ほどの列車の切符が使えることから、みんなで急いで駅に向かった。何とかギリギリ列車に乗ることができ、チボリ公園に向かう。チボリ公園のチケットを上田さんに説明してもらい購入し、みんなでチボリ公園に入場する。上田さんとは、入場ゲートでお別れ。



入場後、みんなで正面入口まで移動し、ここに20時までに集まるよう指示をする。この時点で18時だったので、

2時間は遊べる。子ども達にはグループ行動するよう指示し、「愛海さん・結衣さん・咲さん・美鈴さん」「春花さん・紗季さん・来実さん」「玲央君・倫君」に分かれ、ジェットコースターや観覧車などに乗っていた。集合時間にはみんなきちんと正面玄関に集合する。話を聞くと、みんな2、3種類の乗り物に乗ったとのこと。

帰りは、コペンハーゲン市庁舎横のアンデルセン像の前で記念写真を撮り、ストロイエ（コペンハーゲンのお洒落な歩行者天国）を歩いてホテルに戻る。さすがに帰り道はみんな疲れて口数が少なかった。

チボリ公園は、初日の日程がハードなことから、子ども達の体調を考慮して日程から外すことも考えたが、子ども達の「行きたい！」という意見を尊重して日程に加えていた。最後の方は疲れが見えたけれども、子ども達は体力回復が早いだろうし、何よりみんなチボリ公園を楽しんでいたのも、チボリ公園に行き良かったと思う。

➤ 8月12日（火）

今日はオーデンセでアンデルセン博物館の見学と、リングゲに行く日。

朝5時に起床。朝食まで時間があつたので、ホテル周辺を散策する。天気は薄曇り。早朝のため人影はまばらであった。コペンハーゲンの街並みを眺めながら、自分がデンマークに居ることを実感する。

7時少し前にホテルに戻り、ロビーに居ると、朝食の集合時間7時までに全員がロビーに集まる。子ども達は、まだ眠そうな顔をしている子もいたが、昨日の疲れもなさそうで思い

のほか元気そう。

朝食はバイキング方式で、パン、ハム、チーズ、ヨーグルト、サラダ、スイカ、グレープフルーツなどがあった。これがデンマークで初めてのきちんとした食事。当たり前だけど洋食。

子供たちは、パンやフルーツなどそれぞれ好きなものをよそって食事をする。朝早いからか、みんなそんなに多くは食べてはいない。

ホテルを9時にチェックアウトし、アシストの上田さんに率いられ、コペンハーゲン中央駅に到着。アシストの上田さんとはここでお別れ。コペンハーゲン中央駅からは10時発の列車でオーデンセに向かった。この列車は座席指定をしていたが、指定席にはスーツケースを置く場所がなく、富留田先生と私が二手に分かれて、別々の自由席車両でスーツケースの見張りをしなければならなかった。

オーデンセ駅に到着し、ホームに降りると、道子ペダスンさんが迎えに来てくれていた。道子さんは、かなり前からデンマークに移住している方で、毎年、派遣団にオーデンセ市内を案内してくれている。

オーデンセ市内を見学するのに大きなスーツケースは邪魔になるので、駅近くのホテルにスーツケースを預け、駅建物内のハンバーガーショップで昼食をとり、徒歩でアンデルセン博物館に向かう。スーツケースがないおかげで、みんな足取りが軽やかだ。博物館への道中にもアンデルセンゆかりの建物などがあり、道子さんは、1つ1つ説明してくれた。

博物館に到着すると、翌日からオーデンセの花まつりが開催されるとのことで、前庭では飾りど付けなどの準備作業が行われていた。館内は、アンデルセンの生きた時代背景や生涯、作品、生家などアンデルセンに関する様々ものが展示されていた。付記されている説明は全てデンマーク語や英語、ドイツ語など私たちには難解なものだったが、道子さんはまるで博物館専属の学芸員のように丁寧に説明してくれた。子ども達もきちんと聞いてくれていたのが嬉しかった。

博物館の帰り、大聖堂などを見学しながら、オーデンセ駅に向う。道子さんは、リング行きの列車のホームまで私たちを見送りしてくれた。道子さんには代表して愛海さんからお礼の挨拶をし、美鈴さんからお土産を手渡した。

列車は15時23分に出発。道子さんがホームから手を振ってくれている。道子さん、お世話になりました。車内は混んでいて、みんな立っていた。いよいよリングに着くからなのか、子ども達のテンションが上がっているように感じる。

15時39分、列車がリング駅に入る。ホームには大勢の人達がいる。デンマークや日本の旗を振ってくれている。初めは驚いたが、歓迎されていることが伝わってきて、嬉しさの方が大きくなる。ホームに降りると、にこやかに大柄な男性が近づいてきて直ぐに握手を求められた。登別デンマーク協会の副会長、コーコーさんだった。その後も会長のリズィさん、リングフリー校のアネ先生、ヘレ先生、デンマーク協会の交流事業で数日後に登別市に来る予定のアメリカさんと挨拶を交わす。大勢の人でごった返しているホームで、ホストファミ



リーと子ども達がお互いを確認している中、リズィ会長がベンチに立って何やらスピーチを始めた。そしてそれが終わるやいなや、子ども達は、あっという間にホストファミリーに引き取られていなくなってしまった。

私と富留田先生は、ホストファミリーであるランドグリーン家のマリアンが迎えに来てくれたので、車でホスト宅に向う。

ホスト宅に着くと、マリアンは家の中を案内してくれた。ホスト宅は、白い壁がきれいな平屋の大きな家だった。広い庭があり、そこには小さなサッカーコートやトランポリンがあった。日本の住宅事情から比べると、土地も建物も余裕があるが、デンマークでは特別ではないらしい。

マリアンは英語を話すことができたので、英語でお互いの自己紹介をする。途中で夫のヘニングも帰ってくる。ヘニングは子ども達にハンドボールを教えているらしい。娘のニコリネは高校生だがプロのハンドボール選手で、週末にしか戻らないらしい。身長が186cmもあるとのこと。息子のニコラスはホームステイ中は友達のところ泊まるので、私達がいる間は、マリアンとヘニングと富留田先生と私の4人とのことだった。

マリアンは一度仕事に戻らなければならないので、夕食は19時からになるとのこと。

夕食は屋外のテラスで4人で食べた。私は英語が苦手なので、ある程度聞き取ることはできるのだが、話そうとする言葉を表現する英語が口から出てこない。何とか知っている単語をつなぎ合わせて話していると、マリアンとヘニングが一生懸命理解しようとしてくれるのありがたい。それに、富留田先生という心強い味方がいてくれたのも助かった。

夕食後、マリアンとヘニングに誘われて、近くを4人で散策することになった。マリアンの職場を案内してくれるらしい。ホスト宅から徒歩で5分もしないところにマリアンの職場があった。そこは、顔や足のエステ、ネイルなどをやっているコスメティックサロンで、マリアンはその経営者だった。散歩の後、リビングで少しの間歓談し、この日は23時過ぎに就寝。

➤ 8月13日(水)

今日は、初めてリングフリー校に行く日。朝食後、ヘニングのお父さんに送ってもらい、フリー校に行く。8時前にフリー校に着いたが、校内に人影がない。先生が1人いたので聞いてみると、今日は9時から始まるので、休憩室に案内された。美鈴さんも早く来ていたが、他の子ども達は、9時近くになってからホストの子と一緒に次々に登校してきた。

9時から朝会が始まるので、フリー校の先生に案内されてホールに移動する。この日は6歳児の初入学の日らしく、小さい子供が親と一緒に来ていたので、ホールは人でいっぱいだった。派遣団の子ども達もホストの子ども達と一緒にホールに入場してきた。この時、玲央君が少し不安げな顔で近づいてきて、ホストファミリーが変わったようだとの報告があった。そんなことあるのかと思ったが、後で確認をしてみなくては。

朝会では歌を4、5曲歌う。その中には日本の「さくら」も歌っていた。ピアノとベースの伴奏に合わせて歌っているが、みんな明るく、楽しそうに歌っていて、雰囲気は日本の学校と明らかに違う。

歌の後、校長先生の挨拶に続いて、リズィ会長から私達訪問団の紹介と、明日、登別市に出発するアメリアさんの紹介をしていた。

朝会后、交流を行う7年生のクラスに移動。クラスでは、子ども達は7年生の生徒と一緒に

に6つのグループに分かれて座っていた。倫くんは早々と7年生の子ども達と馴染んでいるように見える。教室にはソファが置いてあって、生徒がそこで横になったり、机の上に腰かけていたり教室はとても自由な雰囲気。それでも、先生が話し始めると、皆きちんと話を聞いている。



クラスでは、派遣団の子ども達を含めた全員で英語の自己紹介をして、その後はグループで日本のことについて話しをしていた。咲さんが積極的に話をしていたのが印象的だった。

10時半から11時まではブレイクタイムという中休みがあったので、この時に玲央君のホストファミリーの件について富留田先生からアネ先生に確認をしてもらう。アネ先生からは、ホストが変わった理由はわからないが、玲央君は最後まで新しいホストにな

るとのこと。ただ、新しいホストもとても良い家族とのことであった。

ブレイクタイム後、校内を案内してもらうことになり、子ども達は7年生の生徒が、富留田先生と私はヘレ先生に案内してもらう。

ランチ後、アネ先生、ヘレ先生、7年生の生徒と一緒にリング市内を見学。最初に近くの自然公園を散策し、図書館まで歩いていく。子ども達は7年生の生徒と楽しそうに話しながら歩いていた。リングの図書館は、本だけではなく、DVDやゲームソフトなども充実しており、幼児用のプレイスペースには壁にカラフルな海の中の様子が描かれていたり、かわいいぬいぐるみが置いてあったりと、明るく、開放的な感じがした。

図書館の後、老人ホームに行く予定だったが、自然公園、図書館と思った以上に時間がかかりすぎて、老人ホーム行きはキャンセルになり、図書館で各自解散となった。

日本だとスケジュールどおりに予定をしっかりとこなしていくが、デンマークは結構時間にアバウトなところがあるようだ。

今日の夕食は、ホスト宅にリズィ会長が来て、5人で食卓を囲んだ。リズィ会長は登別マリパークの25周年で来年、登別市を訪れるとのことだった。

➤ 8月14日（水）

今日は、ノーアエア校訪問、レゴランド、ホストファミリーとの食事会と忙しくなりそうな1日。午前5時に起床。天気は快晴だ。

フリー校の朝会は、今日は8時から始まった。朝会前に子ども達の様子を確認したが、みんな体調に問題はなさそうだ。

朝会終了後、校長先生の案内で、すぐ近くにあるノーアエア校まで歩いていく。入口にノーアエア校の先生が待っていてくれた。先生の後をついていくと、インターナショナルコースの7年生の教室に到着した。そこで先生から「今日は何をやるの？」みたいな話をされる。ノーアエア校の訪問は学校の施設見学だけと事前に聞いていたが、うまく調整がされていなかったようで、予想外の展開。教室には20人以上の生徒がいて、何をやるんだろうみたいな目でこちらを見ている。どうしようかと思ったが、ちょうど良くプレゼンのパワーポイン

トと歌の音源が入ったCDを持っていたので、急遽、歌とプレゼンをすることにした。

いきなりだったけれど、歌もプレゼンも、なかなか良い出来だったと思う。プレゼンをするつもりでなかったのですが、カンパ代わりに愛海さんのしおりをみんなで使っていたけど、事前研修で頑張ったかいもあり、みんなそんなにしおりを見ないでできていた。みんなビックリしていたけど、本番に向けていい度胸試しになったんでないかな。その後は、グループに分かれてノーアエア校の生徒に日本の質問をしてもらい交流を行った。

ノーアエア校訪問は9時に終了予定だったが、9時20分くらいまでかかったのが、フリー校の女の子2人がノーアエア校の入口まで迎えに来てくれていた。

次はいよいよ子ども達の最大のお楽しみ「レゴランド」。ヘレ先生、7年生の生徒と一緒にフリー校からバスでレゴランドに向かう。行きの車内ではレゴランドに行く楽しみで子ども達は非常に賑やかだった。

11時過ぎにレゴランドに到着する。入口が混雑していてチケット購入に時間がかかり、レゴランドに入場したのは、11時50分だった。入場してすぐに、子ども達は7年生の生徒とクモの子を散らすようにいなくなってしまう。

ヘレ先生、富留田先生、私の3人は、集合時間と場所を決めて、別々にレゴランド内を見学することにした。レゴランドには、ミニチュアの建物や遺跡、生き物などがレゴブロックで作られていて、見ているだけで楽しめる。それに子供から大人まで、また家族みんなで楽しめるアトラクションが充実していて、丸一日いても飽きないし、何回来てでも楽しめるように感じた。チボリ公園よりずっと楽しめる遊園地だと思う。



帰りの集合時間の15時までに全員無事に集合し、レゴランドを出発。フリー校へ。帰りの車内も行きと変わらず賑やかだった。

フリー校に到着してバス代金を支払う際、6,300クローネのところを6,000クローネに運転手さんが値引きしてくれた。運転手さんの権限で値引きしてもらって良いのかと思いつつ、素直に受け入れた。運転手さん、ありがとうございます。

ホストファミリーの食事は18時からなので、それぞれ一度ホストファミリーのもとに戻り、18時にまたフリー校に集まった。食事は、ホストファミリーが各自手料理を持ち寄って、フリー校の教室で開催された。ホストファミリーにリズィ会長、コーコー副会長夫妻など30人くらいが集まった。始めにリズィ会長の挨拶があり、その後、美鈴さんのホストファミリーと美鈴さんが前に出て、おかしな踊りを踊りだして、みんなを踊りに巻き込み、会場を盛り上げてくれた。子ども達もそれぞれのテーブルで楽しんでいる。

食事会有一些程度進んだところで、リズィ会長の声かけでみんなが中庭に出て、鬼踊りタイムになった。子ども達が鬼の面をみんなに配り終えてから、子ども達と一列になって、みんなの前で鬼踊りの振り付けを見せた。その後、地獄ばやしにあわせて子ども達だけで小さな輪になって踊り、その輪の中にホストファミリーの人達を入れて大きな輪にして踊った。人数が多かったので、輪の大きさは最終的には中庭ギリギリまでになった。最初は私も輪の中で踊っていたが、皆が私の方を見て踊っていたので、途中からは輪の中心で手本として踊っていた。地獄ばやしはエンドレスで続き、踊っている人にも疲れが見えてきたので、10分ほど踊ったところで、踊りをしめた。みんな楽しそうに踊ってくれて、盛り上がってくれた。



踊りの後に、富留田先生がバスの中で考えてくれた原稿をもとに、ホストファミリーの皆さんに英語でお礼のスピーチをした。スピーチの後、拍手をもらったけど、私の英語は本当に通じたのだろうか。富留田先生が、スピーチの内容がわかったとヘレ先生が言っていたことを教えてくれた。富留田先生、原稿ありがとうございました。

この後、帰る人は帰るような感じで自然と食事会は終了となった。

今日は、色々大変だったので、ホスト宅に帰ったら、シャワーを浴びてすぐに寝ようと思ったが、マリアンとヘニングと3人でお互いの家族のことなどの話で盛り上がり、結局23時くらいまで一緒に話していた。私の単語だけの英語でも、とりあえず話せば何とかなることがわかった。それに3人で話して、ランドグリーン夫妻の人間性、やさしさが伝わってきた。とてもいい経験だった。

➤ 8月15日(金)

今日は、プレゼンと歌をフリー校で発表する日。これまで頑張ってきた事前研修の成果を見せる日。

フリー校のホールには、いつもどおり8時に生徒たちが集まった。今日はいつもの歌ではなく、私達の発表から始まる。最初はパワーポイントを使った日本の紹介。フリー校の生徒を前に、子ども達が一列に並んでプレゼンの開始。私はパソコン操作のため、子ども達の後ろにいたので表情は窺えなかったけど、後ろ姿からもみんなの緊張が感じ取れた。

富留田先生のイントロから始まる。その後、ヘレ先生が英語をデンマーク語に訳する。フリー校の生徒は1年生から9年生まで在籍していて、低学年は英語がわからないため、ヘレ先生がプレゼンの内容をデンマーク語に訳する。来実さん、紗季さん、玲央君と、ヘレ先生の訳を挟みながら順調に進んでいく。春花さんの説明の時、みんなで箸を持ち、使い方のジェスチャーをする。フリー校の生徒もきちんと見てくれている。咲さん、美鈴さん、愛海さん、結衣さん、最後の倫君まで、練習の成果が出て、きちんと英語で話していた。トイレの説明は、みんな興味を持って聞いてくれていた。倫君の説明をヘレ先生がデンマーク語訳したところで、集まっている人達から拍手がおこった。その後に愛海さんが最後のスピーチを行い、みんなで「M a n g e T a k ! (ありがとう!)」と言うと、そこでも拍手がおこっ

た。プレゼンは大成功。

次は「海」と「アナと雪の女王」を歌う。両方の歌ともみんな声をしっかりと出して歌えていた。アナ雪を歌っているとき、会場から手拍子もあり、最後は大きな拍手をもらうことができた。子ども達も発表が終わってほっとしているようだ。みんなお疲れ様。とても良い発表でした。

発表後クラスに戻り、7年生の生徒に日本からのお土産を渡す。お土産の中には箸が入っていて、ちょうどプレゼンで箸の使い方を説明したばかりだったので、子ども達が7年生の



生徒に箸の使い方を教えていた。消しゴムや小さい駄菓子の餅を箸でつまんだりしてとても盛り上がっていた。それにしても、デンマークの学校は自由だなと思う。授業中だと思うけど、みんな元気に遊んでいるようだ。フリー校が特別なのだろうか。

その後、7年生の男の子3人の案内で、歩いてファボー・ミッドフュン市役所に行く。市役所の前ではリズィ会長が待っていてくれており、市役所内に案内してくれた。市役所では副市長のフィンさんが対応してくれて、私達を大きな部屋に案内してくれた。フィンさんは、平成11年に研修で登別市に5ヶ月間滞在したことがある方で、今は、ファボー・ミッドフュン市の副市長をしている。部屋にはテーブルがコの字型に並べられていて、その一辺に11人が座った。市長が入ってくると、子ども達にジュースを勧めてくれて、その後にはパンを勧めてくれた。日本の市役所とおもてなしの仕方がかなり違う。食事が落ち着いたところで、子ども達が市長に一人一人英語で自己紹介をする。全員の自己紹介が終了したところで、市長から子ども達に英語でお話があった。内容は、「若いうちに色々な国を見て、成長して欲しい。」というようなこと。市長は、自己紹介を聞いているときも、お話をしているときも、最初から最後までずっと立ちっぱなしだった。その後、一人一人に市長からプレゼントが手渡される。みんなプレゼントをもらってそのままにしていると、長から「デンマークでは、プレゼントは開けるものだよ。」というような言葉があったので、みんなでプレゼントを開けてみる。プレゼントの中身は、ホテルで使うような白い立派なバスタオルだった。しかも、ファボー・ミッドフュン市の紋章入りでかなり格好いい。子ども達もみんな喜んでいる。

最後に市長、フィンさんを含めて全員で写真撮影。フィンさんが女性職員を呼んでくれて、私のカメラで写真を撮ることになったのだが、子ども達が、自分も自分もとカメラを差し出したので、結局10台くらいのカメラが集まり、その女性職員さんが1台1台写真を撮ってくれた。カメラがたくさん集まった様子は面白かったけれど、その職員さんは大変だっただろうな。お疲れ様でした。



別れ際に富留田先生が市長に、「2020年に東京でオリンピックがあるので、日本、そして登別に来てください。」と伝えて、市長、フィンさん、リズィ会長と別れ、フリー校に戻る。

別れ際に富留田先生が市長に、「2020年に東京でオリンピックがあるので、日本、そして登別に来てください。」と伝えて、市長、フィンさん、リズィ会長と別れ、フリー校に戻る。

ランチの後、ヘレ先生、7年生の生徒と森の幼稚園に向けて12時半頃に出発する。途中、新しい住宅街を歩いて、幼稚園に着いたのは、13時少し前だった。幼稚園は「森の幼稚園」という割には、森の中ではなく道路沿いに建っている。園長先生らしき女性が出てきて説明があり、幼稚園から歩いて森に行くとのことであった。園長先生の案内で森に向かうと、森は幼稚園から歩いて10分程の所、麦畑の向こうにあった。森の幼稚園というのは、幼稚園児の遊び場が森の中にあるということらしい。森の中で園長先生から説明があった。今日は園児達がいらないが、普段は9時から13時まで園児がこの森で遊んでいること。森の中には、火をおこすところ、雨をしのぐところなどがあり、木材をナイフで削ったり、キノコの標本を作ったり、色々な遊びをしていることを教えてくれた。この森の中で遊んで育った園児達は、たくましくなるだろうと思えた。森の中には野イチゴが実をつけており、園長先生が食べることを勧めてくれたので、食べてみると、少し酸っぱいが、美味しかった。倫君はデンマークの子と一緒にたくさん食べていた。紗季さんと来実さんはデンマークの少年にイチゴを食べるように勧められていたが、「NO!」と言って断っていたけど、結局少し食べていたかな。



森から幼稚園に戻り、園長先生に施設を案内してもらおう。屋外施設は、アスレチック的なものや小さな丘、自転車で走り回る道や木にロープがかかっていたりと、楽しそうなものがたくさんあった。園児達の一番お気に入りの場所を案内してもらおうと、干し草が一面敷き詰められた倉庫のようなところだった。地面が干し草で覆われているので、転んでも痛くなさそうだし、イスやテーブル、ソファなども置いてあり、壁には園児達が描いた絵が飾ってあった。これなら園児達は本当に喜ぶだろうと思える場所だった。その後建物内を見せてもらったが、屋内はほとんど使わないとのことであった。屋内を見学して凄いなと感心したのは、園児全員の出欠状況がモニターにリアルタイムに流され、それがインターネットで自宅に居ながらわかるとのこと。その他の様々な情報も当然流しているとのことであった。ITC化が進んでいる。

最後の質問タイムに園長先生に対して、何で森に幼稚園をつくったのかを富留田先生から聞いてもらった。園長先生は答えに少し悩んでいたようだが、森の中で園児達が季節の移り変わりを感じ、自然と身近に接することにより、生きる力を磨くためだと話してくれた。

幼稚園からの帰り、子ども達は、それぞれホストファミリー宅に帰宅していった。

ランドグリーン家で、ヘニング、マリアン、富留田先生と4人で18時から夕食。デンマークの18時は、まだまだ明るく、暖かい。ヘニングとマリアンが、夕食後にみんなでスポーツをするのに出かけるとのこと。食事が終わって、運動できる服装に着替えてから、ヘニングの車に乗り込むと、行き先は家からさほど遠くない所にある体育館だった。体育館には、子ども達やホストファミリーが40人近く集まり、6つのチームに分

かれて、バレーボールの試合をした。久しぶりにバレーをやったが、みんな中々ボールがつながらない。子ども達はキャーキャー言いながら、楽しそうにバレーをしている。ホストファミリーのヘニングは審判専門だったが、マリアンは試合に出ていた。さすがスポーツマン一家のおかあさん。バレーも上手だった。



試合は2チームしかできないので、待っている時間、他の人達は思い思いに好きなことをしている。玲央君はデンマークの子ども達とサッカーをしている。倫君は体育館の外の方でデンマークの子ども達と何やら話している。女子チームは、みんなで輪になって座りながらペチャクチャと楽しそうに話している。そんなこんなで、終わったのが21時くらい。それでも帰りの空はまだ明るかった。

今日は、発表会からバレーボールまで1日ハードだったので、帰宅後シャワーを浴びて、すぐに就寝。たぶん子ども達もみんな疲れただろうな。

➤ 8月16日（土）

今日は、イーエスコウ城見学の日、そして、ホストファミリーと1日を過ごせる最後の日。

朝8時頃に富留田先生とダイニングに行くと、台所ではヘニングが料理中。「マリアンは？」と聞くと、仕事に行って、後で戻ってくるとのこと。ヘニングを覗いて見ると、フリカデラ（デンマーク風ハンバーグ）をたくさん作っていた。今日のランチ用かな。それから朝食も作ってくれた。スクランブルエッグにウインナーとベーコンの炒め物。スクランブルエッグはちょうどいい塩加減、ベーコンもカリカリしていて、ヘニングの料理は美味しかった。デンマークの男性はみんな料理が上手なのかな。

マリアンが仕事から戻ってきて、10時にイーエスコウ城に出発する。マリアンの息子のニクラスと友達、愛海さんもマリアンの車で一緒に行く。リングからイーエスコウ城までは高速道路を走って車で15分くらい。周辺は、家もなく、あるのは畑と林だけだった。イーエスコウ城は城の他にも様々な施設が敷地内にあり、一つの公園のようになっていた。

10時半頃には子ども達とホストファミリーが揃ったので、入場ゲートから敷地内に入る。大きな木がある広場に12時半に集まることにして、それぞれ園内を見学することになる。子ども達はホストファミリーの子達と一緒にすぐになくなった。私と富留田先生は、それぞれ自由に園内を見学することに。園内は広く、様々な施設があったが、やはり初めはマリパークのニクス城のモデルであるイーエスコウ城を目指した。イーエスコウ城の入口まで歩いていくと、城内に入る入口が閉まっていた中を見学することができなかった。城を眺めながら周囲を散策することにした。間近で見る本物のイーエスコウ城は、形こそニクス城と似ているけれども、歴史の重みからくるものなのか、城の風格がまったく異なり、周囲の庭園とも相まって、荘厳な雰囲気を醸し出していた。

その後、城主のコレクションである自動車やバイクの博物館などを見て回り、集合場所に戻る。富留田先生と見て回った所の話をしていると、先生はイーエスコウ城の中を見ることができたとのこと。私が行った時は入口が閉まっていたので中を見ることができなかったことを話すと、先生に驚かれ、イーエスコウ城に来てイーエスコウ城の中を見なかったら意味がないから、ランチの後に行ったほうがいいとかなりの勢いで言われる。



ちょうど周りに子ども達が全員集まっていたので、先生がイーエスコウ城を見ていない人の確認をしたところ、結衣さん、紗季さん、来実さんが見ていなかったため、ランチ後に一緒に見に行くことにする。ランチの途中で、結衣さん、紗季さん、来実さんにイーエスコウ城に行こうと誘われたので、一緒に行く。ホストファミリーの女の子達3人がイーエスコウ城を案内してくれるとのことだった。ホストファミリーの女の子に案内されてイーエスコウ城に行くと、今回は入口が開いている。受付の女性に日本語訳の説明書をもらい、みんなで城内へ。1Fの広間は壁にトラやライオン1頭そのままの毛皮や鹿の頭、よくわからない宝箱みたいなもの、肖像画など色々なものが陳列されていた。

2階は天蓋つきのベット、子供や女性の肖像画や甲冑、リアルな人形がある部屋もあり、少し驚く。途中、壁中に鹿の頭や矢の刺さった鳥が飾ってある部屋を通る。貴族の遊びなんだろうが趣味が悪い。ミニチュアハウスがある部屋を抜け、屋根裏部屋へ。屋根裏部屋には、デンマークに行く前から噂を聞いていた、動かすと城が沈むといわれている人形が柱の奥に横たわっていた。この人形、確かに薄気味悪い。女の子達も気味悪がっていた。

イーエスコウ城の見学も無事に終わり、集合時間の15時半までは園内を散策してから集合場所に戻る。ホストファミリーと子ども達全員が集まってから、駐車場に移動し、そこで解散。行きと同じく愛海さんとニクラス、友達も一緒にマリ안의車で家まで戻る。

この日の夕食は、富留田先生に愛海さんとニクラス、ニクラスの友達2人、ヘニングとマリアン、計8人。ダイニングのテーブルに焼きたての四角いピザがあり、みんなそれぞれピザカッターで切り取り、食べる。このピザは、愛海さんとニクラス、ニクラスの友達がトッピングしたとのこと。熱々で美味しいピザだった。夕食後、マリアンが富留田先生と私にプレゼントをくれた。ベリーのマーマレードとイーエスコウ城で買った何かのオイル、それにパイプのラクリス。ベリーのマーマレードは嬉しかった。朝食のときパンにつけて食べていたものと同じもので、いつもマリアンに「これ美味しいね。」と言っていた。それでお土産に持たせてくれたんだと思う。ありがとう、マリアン。その後、ヘニング、マリアン、富留田先生、私の4人で写真をとる。一緒に撮る最後の写真かな。

部屋に戻ってからは、部屋の片づけとスーツケースに荷物をまとめ、重さを確認する。最初に量ったときは23kgになってしまい重量オーバー。手荷物のバックに荷物を移

し、何とか20kgにおさめた。

今日が最後のデンマークの夜。何かあつという間に過ぎてしまった感じがする。明日はもう日本に帰る日。デンマークから離れる寂しさと日本に帰れる嬉しさが入り混じりながらの就寝。

➤ 8月17日（日）～18日（月）

朝5時に起床。今日はデンマーク最終日。ヘニングにパン屋さんに連れて行ってもらい、毎朝食べて美味しかったイタリアンブレッドをお土産用を買う。デンマークのパン屋さんは、朝早くから開店していて、焼きたてのパンを売っているとのこと。

朝食後、本当に最後なので、4人で写真を撮る。レポート用にいつも写真ばかり撮っていたから、ヘニングとマリアンは、今回も笑っていた。

準備を整えて、ヘニング、マリアンと車でリング駅に向かう。駅に行くと思っていたら、その前にヘニングのお父さん、お母さんの家にお別れの挨拶に立ち寄った。ヘニングのお父さん、お母さんにはホームステイ中に送り迎えをしてもらったり、料理を作ってくれたり、何かとお世話になっていたの、最後に挨拶ができて良かった。その際にガーデンと温室を見せてもらい、温室でなっていたイチゴを食べさせてもらった。とても甘いイチゴだった。笑顔がとても良く、あたたかいヘニングのお父さんとお母さん。ヘニングがいい人なのが良くわかる。お別れにお父さん、お母さんと握手をしてお別れをする。

リングの駅に着くと、もういくつかのホストファミリーと子ども達が来ていた。子ども達はホストファミリーとの別れを寂しがっている様子だった。春花さんは号泣。愛海さん、美鈴さんも泣いている。咲さんもつられて少し泣いている。倫君は男の友情って感じ。拳と拳を交わしていた。結衣さん、紗季さん、来実さん、玲央君は、明るくさよならをしていた。私も子ども達が泣いているのを見ていたら悲しくなってきた。マリアン、ヘニングと最後の挨拶をする。ホストファミリーのヘニングとマリアンはとてもいい人達だった。親切でとても温かい。ヘニングは声が大きく、元気でスポーツマン。マリアンも私のつたない英語をきちんと聞いてくれて、褒めてもくれた。本当にお世話になりました。最後にヘニング、マリアン、アネ先生と抱擁し、子ども達と列車に乗り込む。9時46分に列車は予定どおり出発。ホームではみんなが手を振って見送ってくれている。子ども達も見えなくなるまで手を振ってお別れをしていた。

列車がオーデンセ駅に着き、ホームに降りるとアシストの上田さんが待っていてくれた。デンマークに到着した時に会っているが、何かとても懐かしい感じがした。昼食のパンをセブンイレブンで購入し、コペンハーゲン空港行きの列車に乗る。今回はアシストの上田さんと富留田先生が別車両でスーツケースの見張りをして、私と子ども達が一緒に座った。みんなにぎやかにリングの話に花を咲かしている。子ども達の様子を見ると、初めの頃に比べて、この旅行の中ですごく仲良くなっているのを感じる。列車の中でランチを食べているときに、美鈴さんが泣いていたので、どうしたのかと思ったら、ホストのお母さんが作ってくれたランチにお米が入っていたので、その心遣いに感動して泣いていたとのこと。いいホストファミリーだったんだね。

コペンハーゲン空港に到着して、スーツケースを預け、手荷物検査の入口でアシストの上田さんとお別れする。上田さん、お世話になりました。

全員手荷物検査は問題なし。とりあえず上田さんに言われたとおり、Cゲート付近までみんなで移動する。そして14時半にCゲート集合にして、3つのグループに分かれて自由行動にする。空港内は免税店など様々なショップがあって、短時間ではすべて見て回れないくらい広がったが、私は疲れていたため、Cゲート付近のベンチでしばらく休んでいた。

14時半までに先生と子ども達が集合。出国審査を通る。特に問題もなく、すんなりとパス。搭乗口でしばらく待機してから、飛行機に搭乗した。外は雨が降っている。デンマーク滞在中は雨にあたることなく、ラッキーだった。飛行機は16時10分に日本に向けて出発した。

機内では、離陸後しばらくしてから夕食が出て、その後に暗くなったので、寝ていたらしい。起きたら朝食が置いてあった。ちょうど日本海上空で佐渡島あたり。コペンハーゲンから9時間26分経過しているとのこと。9時40分頃に成田空港に到着。行きの飛行機はすごく長く感じたが、帰りは早く感じた。入国審査をして、リムジンバスで羽田空港へ。羽田空港ではスーツケースを預けてから、昼食をうどん屋さんで食べる。この時のうどんは、久しぶりの日本食でもあり、本当に美味しかった。子ども達もみんな美味しそうに食べていた。特に出汁の効いたつゆが体に染みた。羽田からは14時30分に出発し、16時ちょうどに新千歳空港に到着。北海道に帰ってきた～。手荷物受取でスーツケースを待っている際に、出口の向こうに泉さんと打田君を発見。子ども達にスーツケースを受け取ったら、泉さんのところに行くように指示をする。全員がスーツケースを受け取ったことを確認し、到着ロビーに行く。泉さんと打田君に会って、やっと帰ってきたんだなとホッとす。ほぼ団長の御役目完了。この後市バスに乗り、市役所に到着したのは18時頃。お父さん、お母さんは心待ちにしてみんなのことを待っていたんだろうな。

最後は全員で整列して団長からの挨拶で解散。今回の旅行のすべての日程が終了した。

➤ おわりに

今回のデンマーク派遣交流事業では、リングでのホームステイを通じ、日本とは違う国の文化や生活、そして人の優しさなど、通常の旅行では味わえないような経験を派遣団のみんながすることができたと思います。また、他の国のことを知ることによって、改めて日本の良さに気付くこともできたのではないかと思います。

今回の派遣団に参加したみなさんには、この貴重な経験を糧に、明るく、元気に自分の道を進んで欲しいと思います。来年の派遣団の事前研修で成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。お疲れ様でした。

デンマーク派遣を終えて

鷺別中学校教諭 富留田 しのぶ

慣れない土地、言葉も通じない環境で、子どもたちは大人が想像する以上の適応力を見せました。その中で、積極的にコミュニケーションをとり、表現すること、違う文化を理解することの大切さを学んでいったように思えます。

「若いときに外国に行き、違う文化を体験することは、とても大切なことだ。」訪問したファボー・ミッドフン市の市長の言葉です。若い感受性の豊かなときに、日本とは言葉も文化も異なる場所に行き、その土地の人々とふれあうことは、素晴らしいことである。その経験は、子どもたちの今後の人生に大きな影響を与える。そして、日本とデンマークという国にとってもかけがえのない絆になる。今回の研修を通して、このことを実感しました。デンマークの人々の日本への敬意、私達への心のこもった対応、それらは、これまでの交流の大きな成果だと、ことあるごとに感じたからです。同じことが、登別でもデンマークの人々への対応に現れているのではないのでしょうか。小さな交流の積み重ね、それが大きな実となっていく。人と人とが文化や習慣の違いを乗り越え、友好関係を結んでいくためには、こういった活動が本当に重要であるのです。そういう活動の一端に今回加わることができたことを本当にうれしく思いました。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださいましたことに厚くお礼申し上げます。派遣に際しては、小笠原市長、武田教育長には、多くの励ましや適切なご指導をいただきました。心より深く感謝申し上げます。また、事前の準備、派遣のための事前研修などご尽力いただきました関係者の皆さまには、改めて深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。派遣団の一行は、皆様のご協力とご指導のおかげをもちまして、現地の方々との友好を深め、たくさんの素晴らしい思い出と収穫を得て、無事に帰国することができました。

